

令和4年度 文部科学省委託
がん教育総合支援事業



令和4年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」 実施報告書



埼玉県マスコット「コバトン」
「さいたまっち」

令和5年2月

埼玉県教育委員会

はじめに

近年、社会状況の変化により、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題や新型コロナウイルス感染症など、児童生徒等の心身に影響を与える様々な健康課題が生じています。このような健康課題の解決を図るためにも、学校における健康教育は重要な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染症については、その対応の長期化とともに、インフルエンザとの同時流行など、いまだ予断を許さない状況が続いており、各学校においては、持続的に児童生徒の学びを保障するため、感染防止に配慮しながらの教育活動など、大変ご苦労の多いことと拝察いたします。

がんについては、生涯のうち二人に一人がかかるといわれる中、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は、まだまだ不十分であり課題であると指摘されております。この課題解決のためには、学校教育を通じて、がんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育成することが必要です。

また、埼玉県がん対策推進条例が平成25年12月24日に公布・施行され、その中でも、県は、学校において、がんの予防の推進を図るため、児童生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策を講ずるものとされております。

さらに、学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校においては、新たにがんについても取り扱うことが明記されたことから、新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発が必要となり、学校における健康教育において、がんを取り上げた教育を推進することは、極めて重要であると考えます。

埼玉県教育委員会では平成27年度から、文部科学省の委託事業を受け、「がん教育総合支援事業」を実施しております。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けた指導・助言をいただきながら、主に教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催しています。

本報告書は、「がん教育総合支援事業」における令和4年度の取組の概要や成果等についてまとめております。すべての学校において、掲載しております指導実践例等を活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、がん教育の充実が図られることを期待しております。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、各関係機関、団体の皆様、さらには授業を御提供くださいました羽生市教育委員会、羽生市立新郷第一小学校、小鹿野町教育委員会、小鹿野町立小鹿野中学校、県立松山女子高等学校の皆様に深く感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。

令和5年2月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長
松中 直司

目 次

I	令和4年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」	
1	事業の趣旨	1
2	事業内容	1
3	実施内容	1
4	他部局との連携	3
5	医療機関との連携	4
6	事業の成果	4
7	課題	6
8	令和5年度の事業について	7
II	令和4年度 埼玉県がん教育指導者研修会	9
III	令和4年度 埼玉県「がん教育」授業研究会	
1	羽生市立新郷第一小学校	34
2	小鹿野町立小鹿野中学校	45
3	県立松山女子高等学校	68
IV	令和4年度 埼玉県がん教育推進連絡協議会	
1	がん教育推進連絡協議会設置要綱	84
2	令和4年度埼玉県がん教育推進計画	86
3	がん教育推進連絡協議会委員名簿	87

I 令和4年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」について

1 趣 旨

平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。また、政府が策定するがん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされた。

このような状況を踏まえ、新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制を整備していく必要がある。

そこで、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「がん教育総合支援事業」を実施する。

本事業の実施により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図る。

2 事業内容

- (1) がん教育推進連絡協議会の開催
- (2) がん教育指導者研修会の開催
- (3) がん教育授業研究会の開催

3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るため、学識経験者や医療関係者等で構成される「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言を行うとともに、事業成果の検証を行う。

ア 第1回協議会（がん教育推進計画の検討・決定）

日時 令和4年7月12日（火）午後2時30分～ 知事公館

- 「がん教育推進連絡協議会」について
- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 外部講師の活用について

イ 第2回協議会（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）

日時 令和5年1月11日（水）午後2時30分～ Zoomによるオンライン開催

- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 成果の検証

※ がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

(2) がん教育指導者研修会について

教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として「がん教育指導者研修会」を開催する。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、実践者による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師等の資質向上を図る。

ア 日時 令和4年9月13日(火)午後1時15分～午後4時30分

イ 会場 Zoomによるオンライン開催

ウ 対象 県内公立小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員、市町村教育委員会指導主事、外部講師関係者

エ 内容

(ア) 行政説明 県教育局県立学校部保健体育課 埼玉県立久喜図書館

(イ) 実践発表 令和3年度モデル校

小学校実践校 草加市立八幡小学校 佐藤 優樹 教諭

中学校実践校 元加須市立加須平成中学校 澁谷 裕貴 教諭*

*現加須市教育委員会学校教育課 主幹兼指導主事

高等学校実践校 県立北本高等学校 川尻鈴ノ介 教諭

(ウ) 講演 「学校におけるがん教育の推進

～新学習指導要領の考え方を踏まえて～

講師 東海大学体育学部 教授 森 良一 氏

(3) がん教育授業研究会について

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的とした「がん教育授業研究会」を開催する。

内容の取扱いについては、各学校種の発達の段階に応じたものとし、中学校及び高等学校においては、新学習指導要領(保健体育科)に対応したものとする。

- ※指導内容
- ア がんとは、がんの要因
 - イ がんの種類とその経過
 - ウ 我が国のがんの状況
 - エ がんの予防
 - オ がんの早期発見・がん検診
 - カ がんの治療法
 - キ がん治療における緩和ケア
 - ク がん患者の生活の質
 - ケ がん患者への理解と共生

※研究協議テーマ 「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」

ア 小学校授業研究会

(ア) 日時 令和4年10月19日(水)午後1時35分～午後4時10分

(イ) 参加者 県内公立小学校教職員等

(ウ) 会場 羽生市立新郷第一小学校

(エ) 授業者 工藤 隆太 教諭

(オ) 題材 特別の教科 道徳

主題名 命のかがやき 内容項目 【D 生命の尊さ】

教材名 命を見つめて (出典「新・みんなの道徳6」学研)

イ 中学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和4年11月29日(火) 午後1時40分～午後4時30分
(イ) 参加者 県内公立中学校教職員等
(ウ) 会 場 小鹿野町立小鹿野中学校
(エ) 授業者 笠原 勇人 教諭
(オ) 単 元 保健体育(保健分野)
(1) 健康な生活と疾病の予防
(ウ) 生活習慣病などの予防

ウ 高等学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和4年11月16日(水) 午後1時30分～午後4時30分
(イ) 参加者 県内公立高等学校及び特別支援学校の教職員
(ウ) 会 場 県立松山女子高等学校
(エ) 授業者 大久保 亜耶 教諭
(オ) 単 元 保健体育(科目保健)
(1) 現代社会と健康
(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

(4) 効果的な指導方法の実践研究

- ・発達の段階に応じた効果的ながん教育を行うための指導方法の実践研究
(「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。)

【構造化された授業の提案】

- ・学習内容の明確化(1時間に何を学ばせるのか、何を学んだのかが明らかな授業)
- ・基本的・基礎的な内容を理解させるための学習活動の工夫
- ・主体的に学習に取り組ませるための教材の工夫
- ・教科等横断的ながん教育の提案
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

4 他部局との連携

保健医療部疾病対策課と連携を図り、外部講師の積極的な活用へ向けた取組を行う。

- (1) がん教育における外部講師の活用に係る事業(「がん教育出前講座」等)の学校への周知等を行い、外部講師の活用を促進する。
- (2) がん教育外部指導者研修会を開催し、外部講師等の資質向上を図る。(予定)
- ア 日 時 令和5年2月10日(金) 午後6時20分～午後8時30分まで
イ 会 場 ハイブリット方式(埼玉会館ラウンジ又はWeb視聴)
ウ 参加者 医療従事者、がん経験者等
教育関係者(市町村教育委員会担当者等)

エ 内 容

- (ア) 行政説明① 県教育局県立学校部保健体育課
(イ) 行政説明② 県保健医療部疾病対策課
(ウ) 実践発表① 「模擬授業：医師によるがん教育の実践」
講師：医療法人財団健和会 みさと健和病院
医師 松本 篤 氏

実践発表② 「模擬授業：がん経験者によるがん教育の実践」

講師：リレー・フォー・ライフ・ジャパンさいたま実行委員会

副実行委員長 藤野 信子 氏

(エ) パネルディスカッション「がん教育の効果的な進め方について」 (仮)

コーディネーター：埼玉医科大学総合医療センター

教授 儀賀 理暁 氏

*パネリスト (2) の実践発表者

5 医療機関との連携

埼玉医科大学総合医療センター主催「SMCがん教育セミナー」の後援

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて中止となりました。

以下は、予定していた内容です。

ア 日 時 令和4年8月2日(火) 午後1時00分～午後4時45分

イ 場 所 川越クリニック

ウ 内 容

(ア) 模擬授業 高等学校 埼玉県立北本高等学校 教諭 川尻 鈴ノ介 氏

(イ) 模擬授業 外部講師 埼玉医科大学国際医療①センター 婦人科腫瘍科
講師 黒崎 亮 氏

(ウ) グループワーク 「『がん教育』の課題と対応策について」

コーディネーター：埼玉医科大学総合医療センター

教授 儀賀 理暁 氏

6 事業の成果

学校におけるがん教育の推進を図るためには、新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制の整備などが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言をいただいた。策定した計画に基づく各種の取組を実施することにより、学校における効果的ながん教育の在り方などについて、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

ア がん教育に携わる教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ 行政説明において、学校におけるがん教育の定義や目標、及び外部講師と連携したがん教育の在り方や、配慮事項等について改めて確認するなど、学校におけるがん教育の方向性を示すことができた。また、県立久喜図書館から、図書館を活用したがん情報の入手方法について案内するなど有意義な情報提供ができた。

ウ 実践発表において、昨年度のモデル校の授業者から、がん教育を通じて目指す子供の姿、授業づくりに向けた思い、実践までに生じた葛藤など、具体的な話を通じて、効果的な指導について普及啓発ができた。また、発達段階に応じた系統的な指導についての理解が進んだ。

エ 東海大学教授 森 良一氏による講演「学校におけるがん教育の推進～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」により、新学習指導要領に基づくがん教育をはじめ

とする保健教育の効果的な指導方法など授業づくりの考え方、進め方について理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

- ア 授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導、及び教科等横断的な取組、外部講師と連携した取組などについて検討を重ね、授業研究会では、主体的・対話的で深い学びの視点による効果的な指導方法（学習活動）について、提案できた。また、充実した研究協議を行うことができた。
- イ 小・中・高のモデル校全てで、がん専門医や地域の医療機関の医師などの外部講師と連携した事後指導を実施することにより、効果的ながん教育を実施することができた。
- ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。
- エ 小学校のモデル校では、体育科・道徳科・特別活動の教科等横断的な取組を実施。公開授業では、特別の教科 道徳において、小児がんを題材とした教材を通して、限りある命を輝かせて生きることの尊さや生きることの意義について考え、生命を尊重しようとする態度を育てる事ができた。また、授業研究会の実施後、学級活動（2）において「病気の予防や望ましい生活習慣の確立」及び「自他の健康や命、人との関わりを大切にし、共に生きていく態度」について意思決定する内容で教師とがん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）によるT・T（ティーム・ティーチング）による指導方法の工夫を取り入れることにより、児童は自分事として捉えるとともに、具体的な意思決定をすることができた。
- オ 中学校のモデル校では、保健体育科保健分野において、既習事項や新たな知識について生徒の関心を高める「〇×クイズ」による導入、既存のデータと身近なデータ（当該校の食生活や体格、地域の検診の受診率の実態など）を組み合わせた多様なデータを分析するとともに学級全体で共有する展開、学んだこと踏まえてがんを予防するための自分なりの〇か条を作成するなど、健康に関心をもち課題を解決する学習活動により、学びを深めることができた。また、授業研究会の実施後、学級活動（2）において「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の育成」において、地域の内田医師（小鹿野町立病院院長）を招き、「いのちの大切さ」「将来がんや病気にならないために今からできること」「がんになった時にどう向き合っていくか」について緩和ケアも含めた話を聞くことにより、生徒の将来を見据えた価値ある学習とすることができた。
- カ 高等学校のモデル校では、保健体育科科目保健の授業を実施した。各班に違った資料（複数の資料を組み合わせたもの）を分析させ、全体で共有する中で各資料を結び付けて考えさせることにより、主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動により生徒の総合的な理解を深めることができた。その際、ICT機器の活用や、教師の体験談、各自治体におけるがん検診の啓発CMの映像視聴などを組み合わせることで効果的に行うことができた。また、授業研究会の実施後、ホームルーム活動（2）において「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」において、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）を招き、がんについての基礎的な内容に加えて、がんと就労について考えること、がんと向き合っている人の人生などの話を通じて、健康と命の大切さについて主体的に考えるとともにがんについての理解を一層深めることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

- ア 授業研究会の事後指導として、小・中・高の全てのモデル校で外部講師と連携した取組を実施することができ、児童生徒の心に響く効果的ながん教育を推進することができた。
- イ 保健医療部疾病対策課と連携した外部講師活用のための取組である「がん教育出前講座」「外部講師派遣事業」では、外部講師であるがん専門医に加えて、がん経験者や実施校の養護教諭（がん経験者）とのティーム・ティーチングによる取組など新たな実施形態を実践することができた。いずれの事業も申込件数が年々増えてきており、外部講師と連携したがん教育を普及啓発してきた成果が表れてきているものと思われる。
- ウ 医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀理暁 氏が実施する「SMCがん教育セミナー」について、埼玉県教育委員会が後援し、開催の準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ残念ながら中止することとなった。学校等の教育関係者と医師やがん経験者等の外部講師関係者が共に研修する貴重な機会の為、次年度以降も連携の上、計画していくこととする。

7 課題

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

- ア がん教育について明記された学習指導要領は、令和3年度の中学校の全面実施、令和4年度の高等学校の年次進行実施されたことから、各学校種における学習指導要領に対応したがん教育の効果的に実施について引き続き周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。
- イ がん教育の目標を達成するためには、保健の授業でがんに対する正しい知識を身に付け、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくことが必要である。体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していくことが課題である。
- ウ 小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

(2) 外部講師の活用について

- ア 保健医療部疾病対策課「がん教育出前講座」は、引き続き連携・協力していく。
- イ 外部講師の選定・依頼・派遣については、保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めている。主に外部講師を対象とした研修会を開催するとともに、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。
- ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加も促していく。
- エ 外部講師の派遣について、学校からの要請が増えてきていることを踏まえ、県の登録外部講師の数を増やすとともに、資質向上に向けた具体的な方策を検討していく。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

- ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護

教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ 効果的ながん教育の手立ての一つとして、外部講師と連携した取組についての普及啓発も一層推進していく。

ウ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

8 令和5年度の事業について

(1) がん教育推進連絡協議会の実施 (継続)

ア 日 時

(ア) 第1回 協議会 令和5年7月11日(火) 知事公館※予定

(イ) 第2回 協議会 令和6年1月12日(金) 知事公館※予定

イ 内 容

(ア) 本県のがん教育推進に向けた計画の検討

(イ) 本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

(2) がん教育指導者研修会の実施 (継続)

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア 日 時

令和5年8月23日(水) オンライン開催※予定

イ 内 容

(ア) 行政説明

(イ) 実践事例発表

(小学校) 羽生市立新郷第一小学校

(中学校) 小鹿野町立小鹿野中学校

(高等学校) 県立松山女子高等学校

(ウ) 講 演

横浜国立大学 教授 物部 博文 氏

演題 「学校におけるがん教育について」(仮)

(3) がん教育授業研究会の実施 (継続)

ア 指導内容について

(ア) がんについて正しく理解することができるようにする。

・保健体育(保健教育)の充実を図る。

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保健教育の授業改善を図る。

(イ) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

(ウ) 授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ モデル校について

モデル校(市町村教育委員会)の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮し、実施していく。

(4) 外部講師の活用について

- ア 医師・がん経験者等を対象とした「埼玉県がん教育外部講師研修会」を開催する。その際、外部講師による授業の映像を視聴するなど、より実践的な内容になるよう工夫する。また、開催をハイブリットで行うこととする。
- イ 学校から、がん教育の外部講師の派遣依頼があった場合は、現在県保健医療部疾病対策課が講師の選定を行い、各学校に派遣している。今後は、各学校が直接がん診療連携拠点病院等と協力してがん教育を推進していく体制への移行を検討する。
- ウ がん教育授業研究会において、小・中・高等学校の全ての校種で、公開授業と外部講師による事後指導を組み合わせたモデル授業を実施する。
- エ がん教育授業研究会や外部講師による事後指導について、がん拠点病院・指定病院の医師や、がん患者会、がん経験者等が参加できるよう工夫する。

(5) 関係機関との連携

県教育委員会と医療機関が連携した研修会を次年度も計画していく。

- ア 文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。
- イ がん教育推進連絡協議会は、今年度と同様2回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については、各関係団体に依頼する。

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和4年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項（オンライン開催）

1 趣 旨

日本人の死因の第1位であり国民の生命と健康にとって重大な問題であるがんについて、がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分であり課題であると指摘されている。

この課題の解決のためには、学校におけるがん教育により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図ることが必要である。

学校におけるがん教育の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

2 開催日時

令和4年9月13日（火） 午後1時15分から午後4時30分（接続：午後0時45分～）

3 会 場

Z o o mによるオンライン開催（ライブ配信）

4 主 催

埼玉県教育委員会

5 参加対象者

- (1) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校において、がん教育を行う教員（体育科・保健体育科及び特別活動、道徳科等を担当する教職員）
- (2) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に勤務する管理職及び教職員
- (3) 市町村教育委員会の指導主事等
- (4) 学校医等及び外部講師によるがん教育に関心のある方（医療従事者、がん経験者等）

6 日 程 ※閉会行事後にアンケートに回答していただきます。

12:45 13:15 13:20 13:35 14:35 14:45 16:15 16:25 16:30

接 続	開 会 行 事	行政説明 15分	実践事例発表 60分	休憩	講 演 90分	質 疑 応 答	閉 会 行 事
--------	------------------	-------------	---------------	----	------------	------------------	------------------

7 内 容

- (1) 行政説明 教育局県立学校部保健体育課 指導主事 咲間 悟
埼玉県立久喜図書館 司 書 松本 芽生
- (2) 実践事例発表
 - ・小学校指導事例 第6学年 特別活動(2) イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
「健康な生活と命の大切さ」
草加市立八幡小学校 教 諭 佐藤 優樹
 - ・中学校指導事例 第2学年 保健体育（保健分野）
「健康な生活と疾病の予防」（ウ）生活習慣病などの予防
加須市教育委員会学校教育課
主幹兼指導主事 澁谷 裕貴
（元 加須市立加須平成中学校 教諭）
 - ・高等学校指導事例 第1学年 保健体育（科目保健）
「現代社会と健康」（ウ）生活習慣病などの予防と回復
県立北本高等学校 教 諭 川尻鈴ノ介
- (3) 講 演
「学校におけるがん教育の推進 ～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」
講 師 東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一 氏

<講演資料>

「学校におけるがん教育の推進

～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」

講 師 東海大学体育学部 教授 森 良一 氏



学校におけるがん教育の推進 ～新学習指導要領の考え方を踏まえて～

東海大学体育学部体育学科 教授 森 良一

中教審答申から、学習指導要領の考え方の二つのポイントを 確認しましょう。

学校健康教育

〔教育基本法〕

・ 第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

・ 第二条

一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、**健やかな身体を養うこと。**

健康教育の一環としてのがん教育

心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力のイメージ

健康の大切さ、健康の保持増進に向かう留意や態度等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの観点からの創造的な学習プロセスの実現)

教科横断的な
カリキュラム・マネジメントの実現

- 法令等
- 教育振興基本計画
- 健康増進法
- 備前口腔保健の推進に関する法律
- アルコール健康障害対策基本法
- 少子化社会対策大綱
- がん対策推進基本計画
- 消費者基本計画

何を知っているか
何が
何ができるか

健康な生活を送るための基礎となる
各教科等の知識・技能

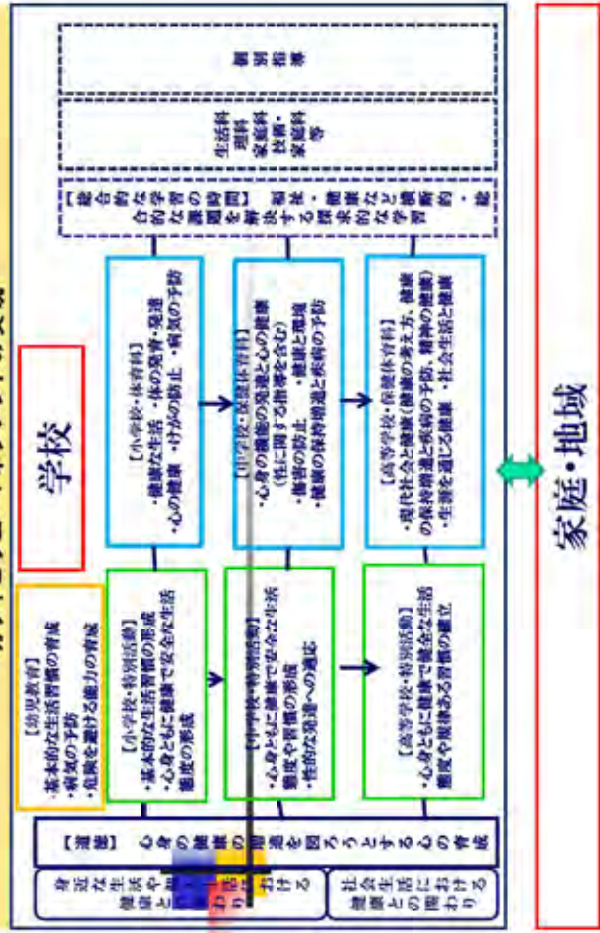
知っていること・できる
ことをどう使うか

自らの健康を適切に管理し、改善していく力
健康に係る情報を収集し、意思決定(意志決定)・行動選択していく力
等

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、**自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、**自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。

5

カリキュラム・マネジメントの実現



新学習指導要領における「がん」に関する部分

中学校〔第2学年〕教科：保健体育（保健分野）

2 内容

(1) 健康な生活と疾病の予防

ア (ウ) **生活習慣病**などは、運動不足、食事の量や質の偏り、栄養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となっており、**養**及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。

3 内容の取扱い

(3) 内容の(1)のアの(イ)及び(ウ)については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことも配慮するものとする。また、**がん**についても取り扱うものとする。

学習指導要領及び解説の
位置づけを確認しましょう。

7

① がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、**生活習慣病の予防と同様に**、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、**ア**、**イ**の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断や**がん検診**などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、**がん**については、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあつて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法(抗がん剤など)、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

新学習指導要領における「がん」に関する部分

高等学校 教科:保健体育(保健)

2 内容

(1) ア(ウ) 生活習慣病などの予防と回復
健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

4 内容の取扱い

(1) 内容の(1)のアの(ウ)及び(4)のアの(イ)については、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。また、(1)のアの(ウ)については、がんについても取り扱うものとする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断や**がん検診**の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

原点に戻って、がん教育の目標と内容を確認しましょう。

13

「学校におけるがん教育の在り方について 報告」

1. 目標

- ① がんについて正しく理解することができるようにする。
がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。
- ② 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。
がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

15

文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について 報告」における今後の検討課題

国は、平成 27、28 年度においてモデル校を中心に以下のことについて検討し、これらの成果を踏まえたがん教育について 29 年度以降全国に展開することを目指す。

(1) がんに関する教材や指導参考資料の作成

がん教育を全国の学校で実施し成果を上げるためには、児童生徒の発達の段階を踏まえ、科学的根拠に基づいた内容に沿って指導を進める必要がある。そのためには、映像を含めたわかりやすい教材等の開発とその活用方法等が示された指導参考資料を作成することが重要である。

3. 留意点

- 体育科、保健体育科、特別活動、総合的な学習の時間、道徳など、相互に関連付けて指導することが重要
- 中学校、高等学校において、より積極的に取り組む。(小学校については要検討)

- 医師や看護師、保健師、保健師、がん経験者等の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫が求められる

- 教育委員会が保健福祉部局や医療機関、地域の医師会などに協力を求めながら取組を進めることが必要

授業のネタを文部科学省の教材から考える

- **がんとは(発生要因)**
- **疫学**
- **予防**
- **早期発見・検診**
- **治療(手術、放射線、抗がん剤)**
- **緩和ケア**
- **生活の質**
- **共生**

引用 がん教育推進のための教材

https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000615_1.pdf

がん教育の具体的な内容

1がんという病気

(1) アがんとは

人間の体は、細胞からできています。正常な細胞の遺伝子に傷がついてできる異常な細胞のたまりの中で悪性のものを「がん」といいます。健康な人の体でも毎日、多数のがん細胞が発生しています。免疫が働いてがん細胞を死滅させています。しかし、この免疫が年を取ることなどにより低下すると、発生したがん細胞を死滅させることが難しくなります。また、がん細胞は、無秩序にも増え続けて周囲の組織に広がります。他の臓器にも移動してその場所でも増えていきます(転移)。

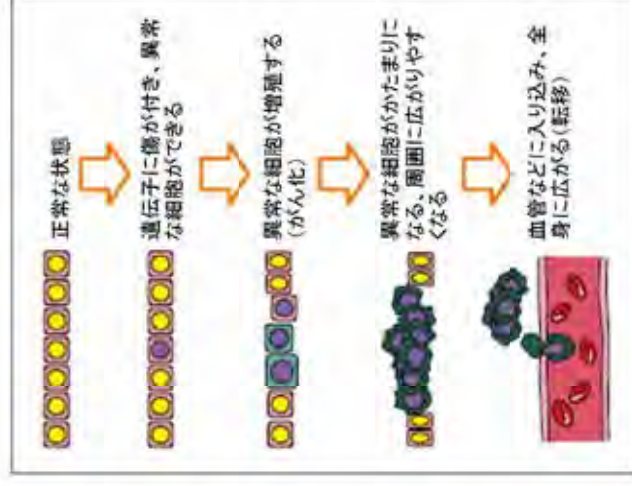
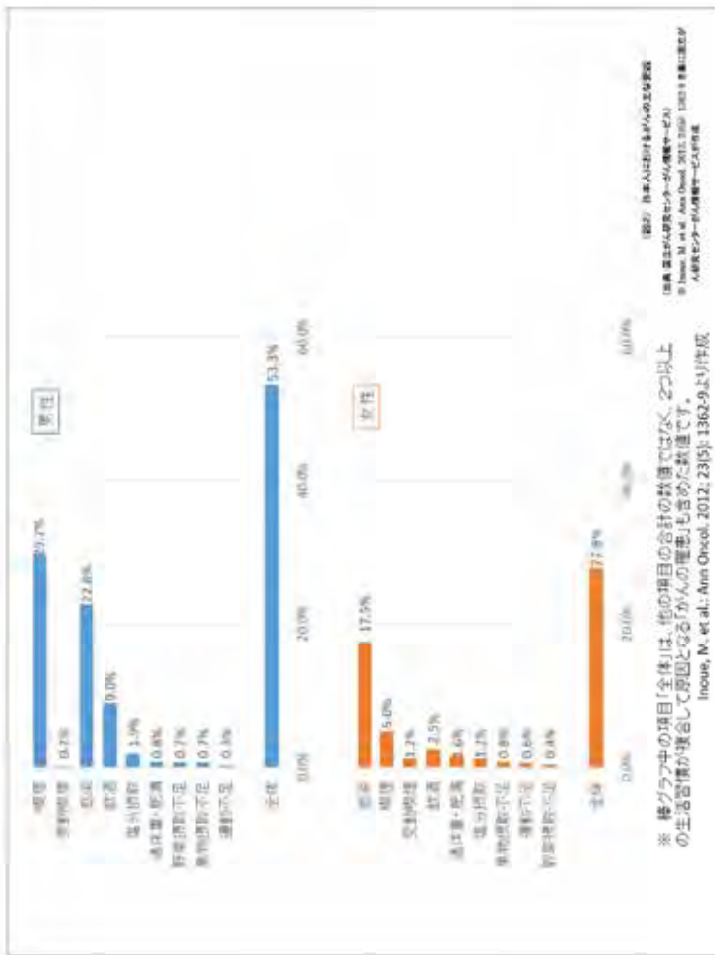


図1 がんの発生と転移
出典 国立がん研究センターがん啓発センター(一部改訂)

Q 日本人におけるがんの 主な要因は？



(2) がんの主な要因
男性のがんの約50%、女性のがんの約30%は、喫煙や大量の飲酒、不適切な食事、運動不足といった生活習慣や、細菌・ウイルスなどの感染が要因と考えられています。まれに遺伝が関与するものや、原因がよく分かっていないがんもあります。望ましい生活習慣を送ることで、がんにかかる危険性を減らすことができます。なお、少数ですが、子供がかかる小児がんもあります。小児がんは、生活習慣が原因となるものではありません。がんについては、その原因の解明や、予防や治療の方法などの研究が進められています。

Q 日本における罹患率一位と死亡率一位のがんは何ですか？

3 がんの経過と様々ながんの種類 (2)がんの種類とその特徴

がんは、すべての臓器に発生する可能性があり、一般的にはその発生した臓器などから名称が決められます。また、「がん」という名称は用いられていませんが、白血病なども、がんの一種です。がんは、その種類や状態によって、治りやすかったり治療が難しかったり、あるいは発見しづらかったりして捉えられないところがあり、それぞれ特徴があります。

4 がんの予防

(1) がんの原因は一つではない
がんにかかる原因は、生活習慣、細菌・ウイルス感染、持って生まれた体質(遺伝素因)など、様々あります。これらのどれか一つが原因となることが多く、幾つかが重なったときに、その可能性が高まります。このことから、望ましい生活習慣を身に付けたり、感染対策を行ったりすることで、がんにかかるリスクを軽減することができます。がんには原因がよくわかっていないものがありますが、がんの原因を解明する研究が進められています。

がんは早期発見がカギです

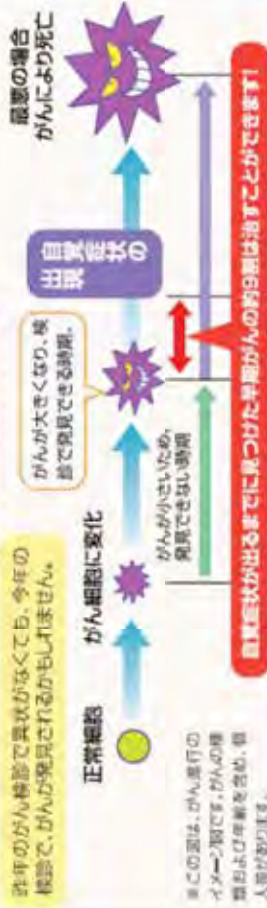


図1 がんの進行の例 (黒田書 上より増補改訂版「がん検診」
(https://www.kokusha.co.jp/besttip/modules/check/index.php?content_id=1)

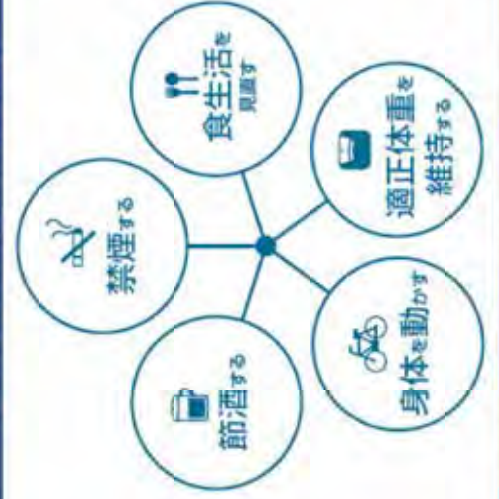
(厚生労働省「人口動態統計」・全国がん登録全国集計を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成(「がん登録」・総研))

罹患数		死亡数				
	1位	2位	3位	4位	5位	
男性	前立腺	胃	大腸	肺	肝臓	1位 5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮	TV 膵臓
男女計	大腸	胃	肺	乳癌	前立腺	肝臓

2017年全国がん登録全国集計によるがん罹患データ

2019年人口動態統計によるがん死亡データ

5つの健康習慣を実践することで がんになる危険性が低くなります



国立がん研究センターがん予防・検診研究センターがん予防グループ
科学的根拠に基づくがん予防・がん予防の推進とがん予防ガイドライン策定に関する研究
http://eglncc.go.jp/can_prev/

(出典:国立がん研究センターがん情報サービスより一部改変)

5 がんの早期発見とがん検診

(1) がん検診による早期発見の重要性

がんは、進行すればするほど治りにくくなる病気で、がんの種類によって差はありますが、多くのがんは早期に発見すれば約9割が治ります。

我が国では現在、肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんなどのがん検診が行われています。検診の対象年齢になると、市町村が実施する住民検診や職場での検診において、がん検診を受けることができます。他にも様々ながん検診がありますが、この五つのがん検診は国が死亡率を減少させる効果を認めて推奨しています。初期のがんは、症状がほとんどないまま進行することが多いため、早期に発見するには、症状がなくても定期的ながん検診を受けることが重要です。



(図1) がんの進行度別にみた5年生存率
出典：(「がん診療連携拠点病院等院内がん登録生存率集計 (2010-2011 診断例)」を基に作成)

※がんは大きさやほかの臓器への広がりによって四つの進行度に分けて考えます。数字が大きくなるにつれてがんが進行している状態です。

Q 外国に比べて、日本におけるがんの検診率は低いのですか？

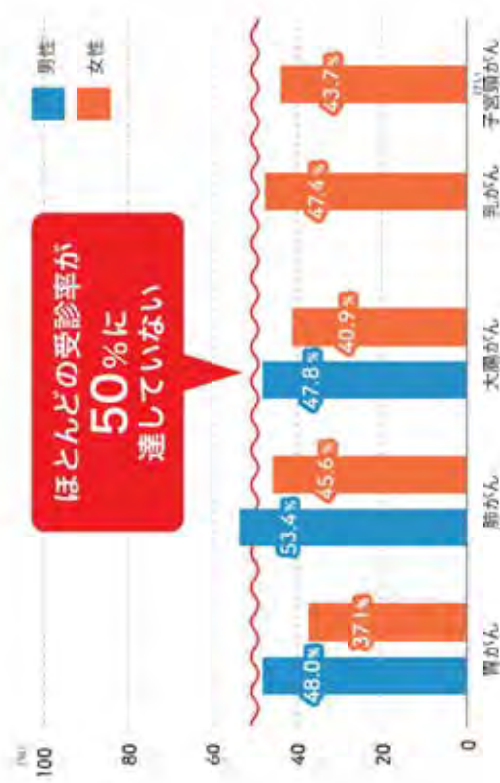


図 男女別がん検診受診率(2019年)
(厚生労働省「国民生活基礎調査」を基に国立がん研究センターがん情報サービスが作成(「がん登録・統計」)(より一部改変))

Q日本におけるがんの治療法の 三つの柱は何ですか？

6 がんの治療法

(1) がん治療の三つの柱

がん治療の三つの柱として、手術療法、放射線療法、化学療法（抗がん剤など）が挙げられます。がんの種類と進行度などを踏まえて、これらを単独あるいは組み合わせて行うことが、標準的な治療法として推奨されています。

また、こうした治療と並行して、心と体の痛みを和らげる「緩和ケア」も行われます（「7 がんの治療における緩和ケア」を参照）

①手術療法

がんを手術によって切除する。最近は入院期間が短くなる傾向にあり、早期であれば数日の入院、あるいは通院で治療できる。体への負担は大きいですが、最近では内視鏡（小型カメラ）を用いた手術など、負担を軽減する手術方法も普及している。

②放射線療法

放射線を照射することによってがん細胞を死滅させ、がんを完治させたり症状を取り除いたりする（図 2）。放射線療法は通院で行うことができ、体への負担も比較的少ない。

（図2）



③化学療法

抗がん剤などの薬を服用あるいは点滴・注射するなどして、がん細胞の増殖を抑える。薬の種類によっては、副作用として脱毛、吐き気などが現れる。最近では通院で治療できる場合も増えてつづつある。なお、子供に多い白血病では、抗がん剤による治療が行われることが多い。

授業づくりのポイント

教材の工夫

がんについて理解を深めるには



がんの知識を広げる

生徒が気付いていない知識を取り上げる。



知識の問い直しをする

その知識は本当なのかがあるのか？



がん以外のことと関連付ける

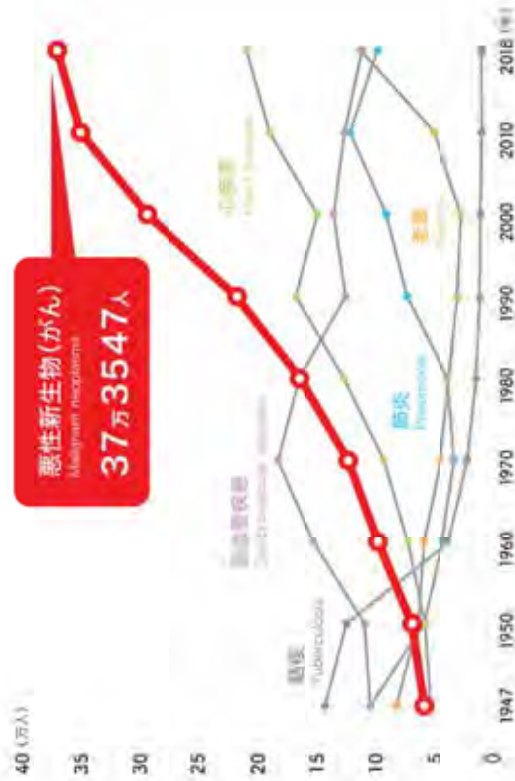
ほかの疾病や社会との関連。

これは本当? 意外な事実

なぜ医療は進歩しているのにがん患者は増えているの?

なぜ早期発見すれば90%以上治るといふのにがんが増えて亡くなる人が多いの?

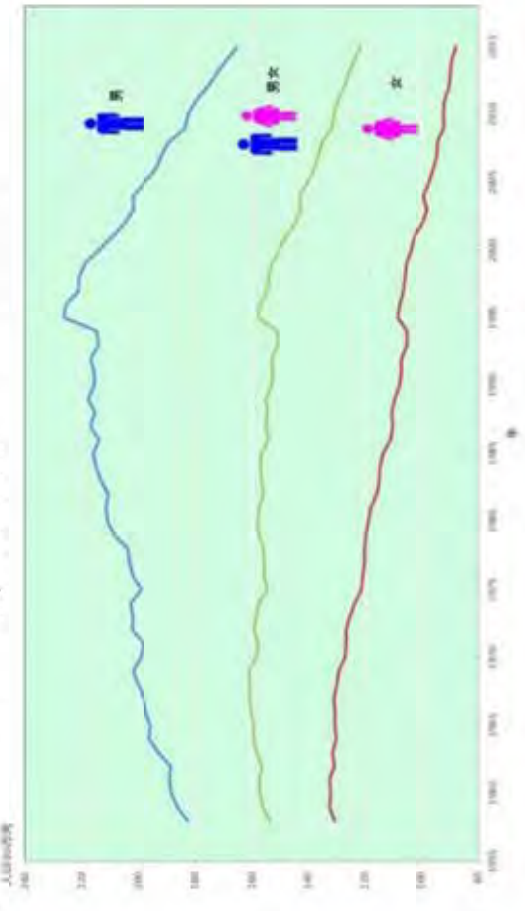
Q日本において、がんの死亡率が上昇した一番の要因は?



(図1) 我が国における死亡率の推移(主な死因別)
(厚生労働省「人口動態統計」を基に公益財団法人がん研究振興財団が作成(「がん統計-10」))

国立がん研究センターがん登録・統計部
 (全国がん・性別)
 1985年～2015年

https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/annual.html



国立がん研究センターがん登録・統計部
 National Cancer Center, Japan

導入で関心をもたせるには

病気「X」は何だろう

- 1
- 2
- 3
- 4

①習得した知識を活用して思考・判断するための事例を考えよう

- 年齢
- 不安や悩み、無関心など
- 教師のメッセージにつながる一文

主体的・対話的で深い学びの実現

40

深い学び



イ 思考力、判断力、表現力等
 健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、**疾病等のリスクを軽減**したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようになる。

がんの予防法は、がんのリスクを軽減することと関連付けられているか

〈例示〉

中学校

・生活習慣病及びがんの予防や、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、習得した知識を自他の生活と比較したり、活用したりして、**疾病等にかかるリスクを軽減し健康の保持増進をする方法を選択すること。**

高等学校

・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、**リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理すること。**

資料3

五つの健康な生活習慣（禁煙、節酒、減塩、適度な運動、適切な体重の維持）とがんの患リスク



出典：Sasazuki S. et al : Preventive Medicine, 54, 112-116, 2012

実践している生活習慣の数が0か1の人のがんの患リスクを1とした時の相対的なリスク

個から総合へ

さらに深めるために

資料4

胃がんの病期5年生存率



全国がん検診センター協議会が調査報告における5年生存率率(1996-2002)

(出) がん研究振興財団「がんの統計2010年版」(P.1)

②学習カードを考えよう

40代の家族、または将来のあなたに対しての、がんの予防方法を「生活習慣」、「がん検診」の言葉を使って説明しよう。

【自分の考え】

【友達の考え】

【まとめ】

がんを予防するために、どのような方法を選択すればよいですか。現在の生活習慣や将来の生活から考えて、理由を添えてまとめよう。

【グループで話し合った予防方法】

A, B, C

【自分の生活習慣の長所・短所】

ア 長所
イ 短所

【将来の生活に必要なこと】

ウ

【リスクを軽減するために新たに取入れる方法やリスクを軽減するため続ける方法と理由】

Aを選択。アが理由。
Cを選択。イが理由。

【リスクを軽減するために新たに取入れる方法と理由】

Bを選択。ウが理由。

がんを予防するために、どのような方法を選択すればよいですか。自分の生活習慣の課題や、理由を添えてまとめよう。

【グループで話し合った予防方法】

A, B, C

【自分の生活習慣や課題】

ア、イ、ウ

【自分が選択した予防方法と理由】
Aを選択。理由は特にウが課題であるため

がん予防における社会的対策をそれぞれ挙げ
てみよう。

【一次予防】

【二次予防】

【三次予防】

総合的、計画的対策

人材活用の重要性

外部講師の確保等

がん教育の実施に当たっては、がんという専門性の高さに鑑みて、がんの専門家の確保が重要である。例えば、「がんプロフェッショナル基盤養成プログラム」や「がん診療連携拠点病院」など広く専門機関等との連携を進めることが考えられる。国のモデル事業を実施する都道府県教育委員会等は、それぞれの保健福祉部局や医療機関、地域の医師会などに協力を求めながら取組を進める必要があるが、その際、都道府県教育委員会等と都道府県等のがん対策担当部局が連携し、外部講師として依頼できるような医師やがん患者・がん経験者のリストを作成したり、活用マニュアルを作成したりするなど、具体的に学校での取組を支援するような体制の構築を検討する必要がある。

(文部科学省「学校におけるがん教育の在り方について報告」)

外部講師を活用したがん教育実施上の手順(例)

	企画	打合せ	準備
学校内	保健主事や授業を担当する保健体育教諭や学級担任などを中心に核となる教員を決め関係教職員と連携し、外部講師を活用する。 ・どんなテーマで ・いつ ・だれを講師に	外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。また、教科書やがパンフレットなど資料を準備し、外部講師を活用したがん教育の予定者との打合せに備える。	当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。 必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。
関係者との調整	外部講師を活用したがん教育の企画に合せて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整	外部講師を活用したがん教育の講師予定者との打合せを行う。 ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認	資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 講師と教員との役割分担についても確認する。

基本的な指導の考え方

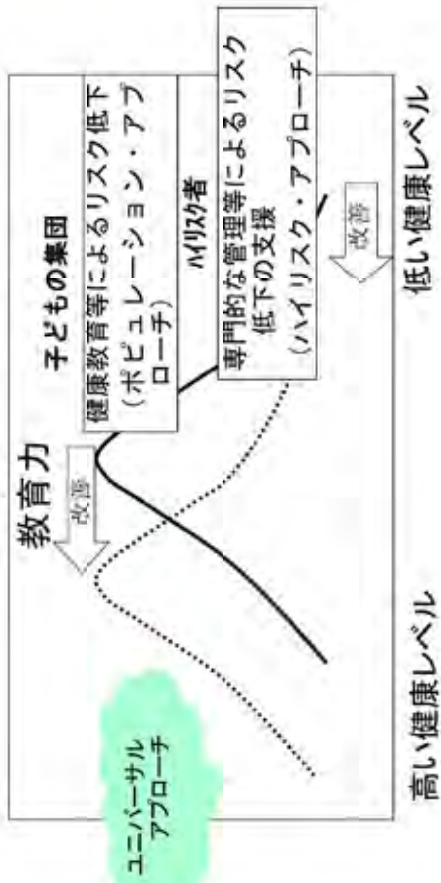


図 健康レベルと疾病リスク

社会に開かれた教育課程

がん教育を通して

令和4年度がん教育指導者研修会アンケート結果

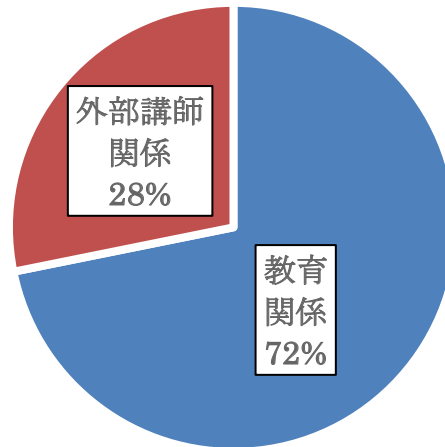
※参加者142名のうち、参加者アンケートに回答した71名。

<参加者について>

参加者内訳（全体）

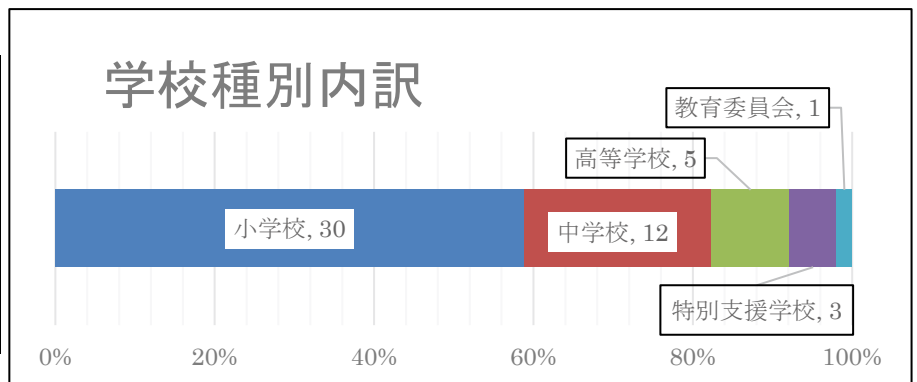
◎参加者内訳（全体）

分類	人数（人）
教育関係	51
外部講師関係	20



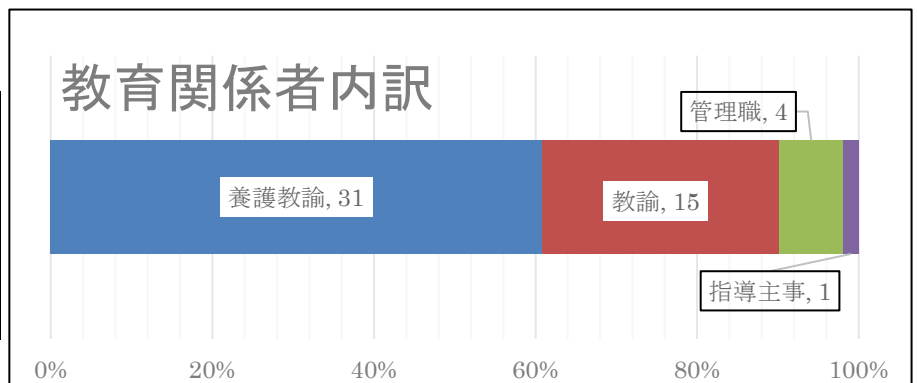
○学校種別内訳

分類	人数（人）
小学校	30
中学校	12
高等学校	5
特別支援学校	3
教育委員会	1



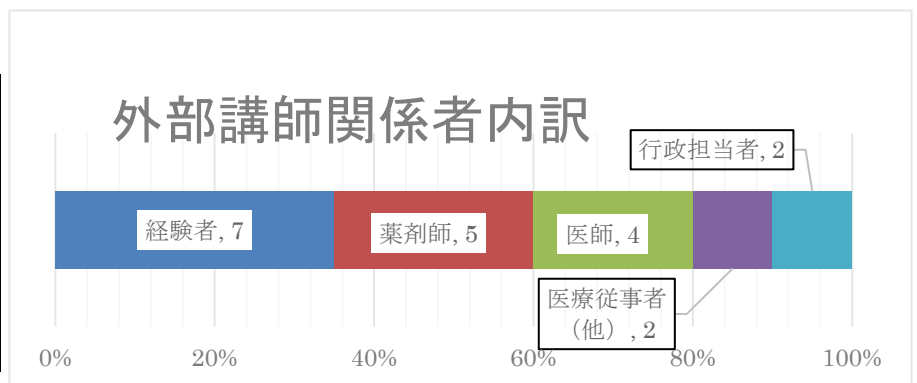
○教育関係者内訳

分類	人数（人）
養護教諭	31
教諭	15
管理職	4
指導主事	1



○外部講師関係者内訳

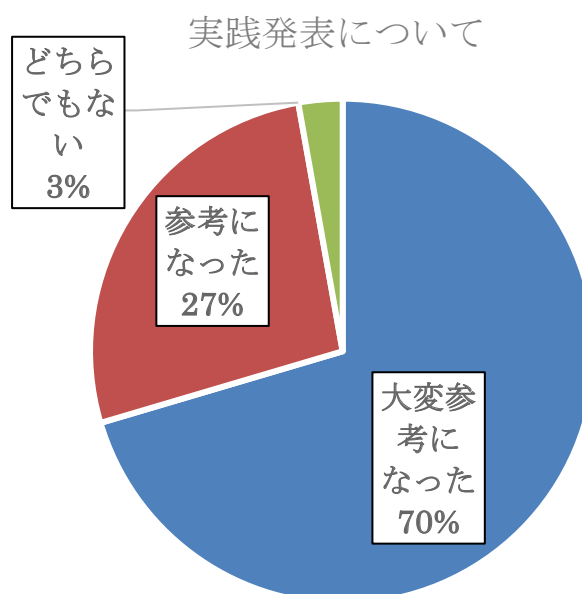
分類	人数（人）
経験者	7
薬剤師	5
医師	4
医療従事者（他）	2
行政担当者	2



<実践発表について>

◎内訳

分類	人数(人)
大変参考になった	50
参考になった	19
どちらでもない	2
参考にならなかった	0



○教育関係者 ※抜粋

- ・小中高等学校それぞれの実践について詳しく学ぶことができました。授業の流れや児童の反応なども、具体的に学ぶことができました。また、がん教育を実施するに当たって、配慮を要する児童への対応なども知ることができました。(小学校・養護教諭)
- ・がん教育についての進め方、目的、考え方について大変参考になりました。特に、小中高との学習内容についての関連性を考えたり、納得や生活の変化を生み出す授業づくりが必要だと改めて思いました。(小学校・養護教諭)
- ・打ち合わせの方法や課題設定を決めるまでの考え方等、詳細に教えていただき、参考になりました。(小学校・養護教諭)
- ・小学校で特活で取り組んでいた例が大変参考になりました。身近なひとの為に出来ることは何だろうという狙いを取り組みやすいと思いました。(小学校・養護教諭)
- ・具体的な実践で、どう外部講師と連携するのかや学びと学習のちがいを意識した授業、課題解決的な授業など様々な実践を分かりやすくお話いただき、大変参考になりました。(小学校・養護教諭)
- ・実際に外部講師を活用したTTの授業形態や、前後のアンケートによる児童の実態の変化が非常に興味深かったです。また、児童生徒自身が自分事としてとらえることができる教育活動が展開されていて非常に勉強になりました。(小学校・養護教諭)
- ・中学校の実践発表が大変わかりやすく、校種は違いますが私自身参考になりました。主体的に学習に取り組む態度を育むことが難しい保健教育ですが、生徒の学ぶ姿勢がイメージできました。(小学校・養護教諭)
- ・外部指導者との事前打ち合わせにオンラインを活用する方法はいいなと思いました。日頃の生活習慣と結びつけて考えられる工夫が大事だと思いました。(小学校・養護教諭)
- ・今年度、小学校での発表校に当たっています。昨年度の先生方の取り組み内容、そして先生方の目的やねらいを直接ご説明いただき大変参考になりました。子どもたちに何をどう教えて、またそれを他の先生方にどう広めていくのか、子どもたちにどのような力をつけさせることができるのか勉強になりました。(小学校・教諭)
- ・外部講師活用のメリットを感じた。動画の中で講師の儀賀先生の言葉は、医師からのメッセージであり、教員では語るできないものであった。(中学校・養護教諭)

- ・小学校から高等学校までの段階的な実践発表を見ることができ、発達段階に応じた授業を行う大切さを感じることができた。またどの実践研究でも生徒たちの声や意見を大切にし、児童生徒の興味関心が増す授業だったので、とても参考になった。今後の授業で生かしていきたい。(中学校・教諭)
- ・外部講師を利用したり、自校の強みを生かしたり、授業に工夫が見られ、実践の参考になるものであった。(高等学校・養護教諭)
- ・様々な校種でのがん教育としての授業の取組を聞き、大変参考になった。「がん」と聞くと子どもたちにとっては大変イメージがしにくいものであり、それを授業の中にどのように実生活と結び付けていくのか難しさを感じていた。今回の実例発表を聞き、身近に感じさせるための工夫を様々な視点から取り入れており、勉強になった。保護者への通知を事前に出し、生徒の精神的不安を取り除くような工夫も必要だと感じた。(高等学校・教諭)
- ・生徒たちに対してどのようなアプローチをしたのか、参考になりました。また、研究授業の前後の授業についてのお話を聞くことで、授業イメージがわかりました。ありがとうございました。(高等学校・教諭)
- ・どの実践発表においても児童、生徒が主体的に学ぶ内容で素晴らしかったです。(特別支援学校・養護教諭)
- ・小中高での系統性がよくわかったことやさまざまな指導方法を知ることができて大変になりました。(特別支援学校・教諭)
- ・授業の中で、情報の鮮度や複数の典拠に基づく信頼性の判断など、健康・医療情報を扱う上で大切な情報リテラシーに配慮されていることがわかったから。(行政・司書)
- ・指導者の思い、それに合わせた指導計画、児童生徒の様子がわかり、大変参考になりました。(行政・指導主事)
- ・がん教育に関して、特にその授業内容については全くの無知でしたが3人の先生方の実践発表を聞いて実際のがん教育の授業がどのように進んでいくのか、生徒たちが実際どのように学んで考えているのかがわかり大変勉強になりました。(行政・主事)

○外部講師関係者 ※抜粋

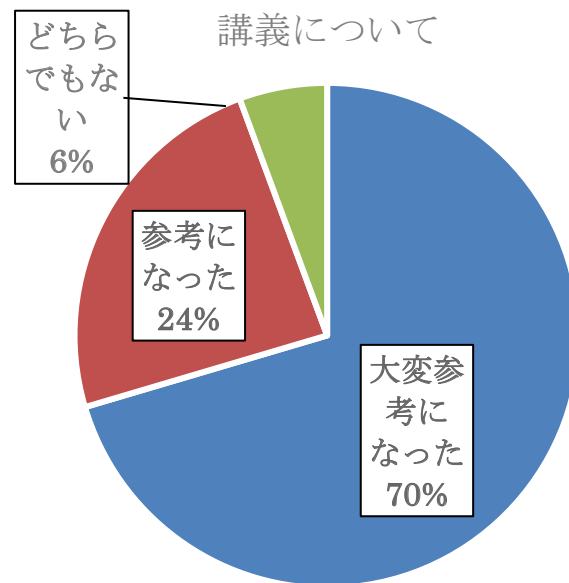
- ・小中高それぞれの現場での注意点、気にかけていることが教諭の視点から語って頂き、通常教育の現場にいない、外部講師としては大変参考になりました。(医療機関等・医師)
- ・小、中、高での伝えるべきポイントの違いが見えた。がん予防と生活習慣病予防の重なり合うところも見え、子どもたちにどう伝えるか、単なる学習で終わらせないこと。個人として考えること。社会的役割として考えることが整理されたと思いました。(医療機関等・薬剤師)
- ・各年代における、成人市民向けの講演とは異なる難しさを認識できた。(医療機関等・医師)
- ・小学校の実践発表では教師と外部講師で、ティーム・ティーン形式の授業「健康な生活と命の大切」テーマで児童と対話しながらの授業は良かったです。(医療機関等・医療従事者)
- ・医師が目の前にいる環境で病を学ぶ良い環境であり体感できたのではないかと感じられました。成長段階に合わせて生きるを学び、生と死を学ぶ授業はとても参考になりました。(がん患者団体等・経験者)

- ・学校での様子がわかり、参考になった。現在さいたま市の中学校の「がん教育」をさせていただいているので、現場を見せていただけることは大変ありがたい（がん患者団体等・経験者）
- ・先生方が子どもたちのことを思い、いかにして「子どもたちの将来に繋がる良い授業をするか」を真剣に研究され授業に臨んでいらっしゃるのを見て、胸が熱くなりました。また、「先生」や「外部講師（医師）」による授業風景を、写真により示して下さいましたので、授業の様子がよくわかりました。ありがとうございました。（その他・経験者）

<講演について>

◎内訳

分類	人数（人）
大変参考になった	50
参考になった	17
どちらでもない	4
参考にならなかった	0



○教育関係者 ※抜粋

- ・がん教育の在り方や、学習指導要領の内容などを踏まえたがん教育の目標等を学びました。作成された背景についても分かりやすく教えていただき、勉強になりました。教材を活用したがん教育の授業のポイントについても教えていただいたので、今後の実践に生かしていきたいです。（小学校・養護教諭）
- ・指導要領の読み取り方や、授業の構成の仕方についてわかりやすい解説でした。自らの生活や身近なものに関連付け、最終的には幸福感を得られる健康教育を目指すべしという先生の言葉が印象的でした。（小学校・養護教諭）
- ・指導要領の内容を自分では、理解していなかったもので、心強いお言葉でした。内容や、小中高との関連が理解できました。細胞分裂との絡みや、学校教育で医療の教育ではないという点が、大変腑に落ちました。（小学校・養護教諭）
- ・初めに「医学を教えるわけではない」とおっしゃったのが非常に印象に残りました。がんについて知るだけでなく、それを題材にして自らの学びを深める活動を行い、生きる力や自他の心身に向き合う必要があることがわかりました。日々研究されていく知識を学び続けながら、児童生徒の発達段階や実情に合わせた指導を行っていきたいと感じました。（小学校・養護教諭）
- ・がん教育をこれまで難しく考えていましたが、森先生がわかりやすく身近に捉えられるようお話くださり、理解が進みました。がん教育というカリキュラムの視点と、児童との日常的な関わりの中で健康教育を進めていきたいと思いました。（小学校・養護教諭）

- ・多くの資料やグラフがある中で、授業の進め方を考えて教材を選択していくことが大切であると教えていただきました。がんの原因がわからないものが多いからがん検診が大切である、という伝え方にも納得しました。大変参考になりました。ありがとうございます。
(小学校・養護教諭)
- ・実践発表会と講演の内容がリンクしていたので参考になった。(小学校・養護教諭)
- ・生活習慣を身に付ける中学生、社会をみていく高校生、発達段階に合わせたがん教育を適切に行なっていくことの大切さを学びました。社会に開かれた教育課程の視点から考えることができました。(小学校・教諭)
- ・資料を自分で読み込むだけでは理解できない部分を専門性の高いをお話してから理解することができました。また、どうしても自身の校種だけに目が行きがちでしたが、中学校高校の学習指導要領の内容や、児童生徒に教えるべき内容などをご指導いただき大変勉強になりました。(小学校・教諭)
- ・健康教育に関しては、日本一の森先生の講演を拝聴できて大変良かったです。ICTの活用の利点を大いに活用できて、臨場感あふれる講演となりました。(小学校・校長)
- ・学習指導要領の解説について、今までになくわかりやすいものであった。なるほどと思ったことが多かった。(中学校・養護教諭)
- ・がん教育を教える立場として、どのような事に留意し、考え、指導していかななくてはいけないのか知ることができた。普段あまり着目していない点にも触れていてとても勉強になった。本日の研修を今後の指導に生かしていきたい。(中学校・教諭)
- ・新学習指導要領を踏まえたがん教育の考え方について、大変勉強になった。あまり視野にいれていなかった外部講師の派遣などもこれからは使っていきたいと感じた。外部講師と連携し医学と教育をバランスよく扱っていくことが大切だと感じた。がんの種類や原因、受診率などがん教育は様々な視点から授業を行うことが出来ると感じた。このようなネタをうまく用いて生徒が興味関心のもてるような授業を作っていきたい。がん教育の在り方を再度確かめることができた。(高等学校・教諭)
- ・新学習指導要領の解説や授業のヒントなど多岐にわたり大変勉強になりました。がん教育を入り口として健康教育を推進していきたいです。(特別支援学校・養護教諭)
- ・とてもわかりやすく、がんの死亡率が上昇した理由を高齢化で片付けてしまうと生徒の学ぶ意欲がなくなってしまうということに繋がることは、とても勉強になりました。生徒が興味をもったり、記憶に残しやすくしたりするためには、外部講師を招くことも一つの方法だということを知ることができ、今後の教育活動に活かしていきます。貴重な講演をしていただき、ありがとうございました。(特別支援学校・教諭)
- ・どのような意図、背景があって指導要領の内容が構成されているのか、なぜこの語句なのか、など、がん教育を推進する土台を学ぶことができました。(行政・指導主事)

○外部講師関係者 ※抜粋

- ・学習指導要領に沿うことの大切さと発展性をもたせることの難しさを感じました(医療機関等・医師)
- ・講演については興味深い点もありましたが教育から考えていく課程については知識がなくよくわかりませんでした。誰かが講義すると言うより自分達で考えていく教育が必要と言うことは理解できました。(医療機関等・薬剤師)

- ・医療人と教育人との観点の差があった。(医療機関等・薬剤師)
- ・がん教育の目標は健康教育。健康教育は自分と周りの人が幸せになるためにあるべきですね。理屈の積み重ね、データの見方は大切です。新しい情報を日々取り入れて、また必要ところは深堀して、分かりやすく伝えたいと思いました。(医療機関等・薬剤師)
- ・がんや医療に関連する教授法について知ることができて有意義であった。(医療機関等・臨床心理士)
- ・使ってはいけない表現などがあること、学年によっては習っていないことがあることなど、どこに呼ばれても同じ話をするのではなく、学習の進み具合に配慮が必要なのことがわかりました。(がん患者団体等・経験者)
- ・言葉の使い方(薬物療法を簡単に口にしていた)。一件漠然とした生活習慣と目的がはっきりしている健康習慣。年間のがん罹患者数と早期発見と死因がいまだ1位である一般の人には矛盾を感じる関係など、書ききれませんが気づきがたくさんありました。(がん患者団体等・経験者)
- ・森教授の「がん教育を通し、他の病気にも関心を持ってもらう」、「がん教育を通して、健康教育を進める」と仰っていたことはまさにその通りだと思いました。貴重な講演ありがとうございました。(その他・経験者)
- ・講演の中で「がん教育を通し、他の病気にも関心を持ってもらう」、「がん教育を通して、健康教育を進める」と仰っていたのが強く印象に残りました。私は、何度もがんを経験していますので「早期発見・検診」の重要性をわかっておりますので、他の疾病を経験した際も「すぐに検診」「早期に治療」を始めたため、大事には至りませんでした。森教授の講演は、最初から最後まですべて興味深く外部講師として活動させて頂く際は学校の方針を伺いながら、先生方と一緒に「主体的・対話的で深い学びの実現」に取り組んで行きたいと思いました。(その他・経験者)

<感想>

○教育関係者 ※抜粋

- ・今年度初めてがん教育を実施するにあたり、とても勉強になりました。知識のアップデートも含め今後も研修等ありましたら幸いです(小学校・養護教諭)
- ・実践事例やたくさんの資料があり、大変参考になりました。本校でも、外部講師を招いて講話をいただく機会が12月にありますのでより良いものになるように、今回の研修を参考に組み合わせて行きたいと思います。(小学校・養護教諭)
- ・今日の午前中、外部講師の方をお呼びして、がん教育を初めて実践してみました。やはり思っていた以上に難しく、たくさんの反省点が残りました。来年度に向けて何に取り組んでいけばいいのか、どのような授業改善をしていけばいいのか大変、勉強になりました。ありがとうございました。(小学校・養護教諭)
- ・がん教育は、保健体育科や特別活動だけではなく、理科や家庭科、特別支援学校では自立活動など、さまざまな教科と関連付けることができるものだと改めて感じる事ができました。また、今回の研修で自身の知見が広がったのと同時に、経験や勉強が足りていないと感じました。今後とも自己研鑽をしていきたいです。(小学校・養護教諭)
- ・今までは、知識を広げたり、理解させることに重点をおきがちだったので、習得、活用、

探究というプロセスの中で深い学びができるような授業を目指したいと思います。がんと
いうとネガティブなイメージで暗くなってしまうため、今までは取り扱いづらかったが、
授業実践を参考に前向きにがんと正しく付き合っていけるようになるといいなと思いま
した。(小学校・養護教諭)

- ・がんに対する考え方が少し変わったように感じる。しかし、身近にがんで命を落としている
経験があるので、怖いという認識は持っている。そういう子供たちもいる上で授業をす
るには配慮が必要だと感じた。予防の仕方を学び、自分のため、大事な人のために学びを
深め、広げていくことが今後ますます必要になってくることだと感じた。(小学校・教諭)
- ・実践された先生方のお話がとても参考になりました。小学校においてはがん教育が教育課
程に位置づけられていないですが、とても重要であり必須な内容、また保健体育などの他
教科への深まりにつながる内容のため、ぜひたくさんさんの学校、たくさんさんの先生方にも実践
してほしいと思いました。今年度発表させていただく者として、そのような視点も持ちなが
ら実践していきたいと考えております。本日はありがとうございました。(小学校・教
諭)
- ・今後も、がん教育のあり方を地道に県内各地で広がっていけるようにまずは、実践してみ
ることが大事だと考えております。様々なアプローチがあることで、授業改善の一つに位
置づけて実践をしていきたいと考えております。(小学校・校長)
- ・社会に開かれた教育課程の実現には、教科を横断した新たな学びの必要性を感じます。し
かし一方で、●●教育の乱立が学校教育を混乱させているところもあります。その価値の
重要性和、限られた時間の中での教育実践のバランスをどこがどうとっていくのか、今後
の大きな課題だと思いました。(小学校・校長)
- ・がん教育についても、年々状況がかわるので、最新の情報や、さまざまな教育方法を学ぶ
ことができよかったです。ありがとうございました。(中学校・養護教諭)
- ・養護教諭や栄養教諭関わったがん教育など、今後拝見できればと思います。(中学校・
養護教諭)
- ・本日はありがとうございました。本日の研修で来年度の授業づくりのポイントや生徒に何
を教えるべきかが明確になりました。中学生だからこそできる予防法や、今からできるこ
とを考えさせたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。(中学
校・教諭)
- ・毎年研修会に参加しているが、年々レベルの向上を感じとても参考になる研修会であつた。
外部講師を活用した実践バリエーションを増やしてもらえらるともっと自校での取り組み
の参考になると感じる。(高等学校・養護教諭)
- ・今回はがん教育ということで新しく導入された分野の研修会に参加することができ、がん
教育について漠然とした考えから具体的なイメージをすることができた。「がん」につい
てまだまだ先のことだと考える生徒が多いなかで、自らの健康を適切に管理できるような
力を育てることが必要だと感じた。いかに今の実生活と結び付けてあげて、実感を味わわ
せることができるかが重要になるので、教材研究に努めていきたい。(高等学校・教諭)
- ・がんと病気について、より自分事として捉えられるように、文科省のパワーポイント
など視覚的情報を駆使して臨みたいと思いました。(高等学校・教諭)
- ・本校の児童生徒たちは白血球に罹患していることが多いです。白血球は染色体の異常によ
っておきます。生活習慣病によって引き起こされていないことも講義の中で触れられてい

てよかったです。(特別支援学校・養護教諭)

- ・身近にがん罹患し、亡くなった人がいる経験や私自身もそうですが、生徒が「がん」を自分のことのように考え、がん教育を通して、健康について考える授業づくりをしていくことが大切だということをおぼろげに学ぶことができました。研修会で学んだことをアウトプットして、他の教員とも知識を共有していきたいと思います。今回学んだことを保健の授業などでしっかりと実践していきます。ありがとうございました。(特別支援学校・教諭)

○外部講師関係者 ※抜粋

- ・実際の指導の現場をみせていただきたいと思いました(医療機関等・医師)
- ・学習指導要領にのったということで各学校で「がん教育」が行われることになったのは大変喜ばしいことと考えます。他面、学校により取り組みの濃淡があるのは否めません。養護教諭、学年担当が一体となり熱心に取り組んでおられ、事前の打ち合わせでも非常に密度の高い話をされる学校も多数ありますが、外部講師に話をさせるだけで言い方は悪いですが「丸投げ」のようなことも時にあります。また、まだ特活などを利用した「がん教育」を始められていない学校の先生方にどうしたら始められますかと伺うと「具体的なとりかかりがわからない」(医療機関等・医師)
- ・がん教育もですが環境の変化で起こる災害や感染症など色々な対応が必要と思いました。(医療機関等・薬剤師)
- ・オンラインで開催していただけるのは非常に助かります。良くも悪くもがん患者差別のようなことは実際にあります。私達が元気で生きている姿を見せることも参考になるのかもしれないと感じました。先生方のご苦労が多いことと思いますが早い時期からの教育に期待します。(がん患者団体等・経験者)

令和4年度埼玉県「がん教育」授業研究会(小学校)開催要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがん教育の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和4年10月19日(水)

4 会 場 羽生市立新郷第一小学校
〒348-0041 羽生市上新郷5716番地

5 参加対象者 小学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、特別支援学校教職員及び指導主事等 ※会場校設置市(羽生市)の小中学校管理職及び中学校教職員

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受付 | 13時15分～ | (体育館) |
| (2) 公開授業 | 13時35分～14時20分 | (体育館) |
| (3) 全体会 | 14時35分～14時50分 | (体育館) |
| (4) 研究協議 | 14時50分～16時10分 | (体育館) |

7 公開授業

学年	授業者	主 題 名 等
6年	工藤 隆太 教諭	特別の教科 道徳 主題名 命のかがやき 内容項目 【D 生命の尊さ】 教材名 命を見つめて (出典「新・みんなの道徳6」学研)

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	松中 直司
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	教育指導幹	大松 武晴
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	咲間 悟
埼玉県教育局東部教育事務所	指導主事	平澤 亜美
羽生市教育委員会学校教育課	指導主事	蓮見 典昭

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
草加市立草加小学校	校 長	小松 薫樹
深谷市立深谷西小学校	教 諭	栗田 顕
戸田市立戸田東小学校	養 護 教 諭	佐々木真理

第6学年1組 道徳科指導案

令和4年10月19日(水) 第5校時
場 所 体育館
児童数 27人
指導者 教諭 工藤 隆太

1 主題名 命のかがやき 内容項目 [D 生命の尊さ]

2 ねらい 生命には終わりがあり、かけがえのない生命だからこそ精一杯生きようとする態度を育てる。

教材名 「命をみつめて」(出典「新・みんなの道徳 6年」 学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校学習指導要領第3章特別の教科道徳における内容項目[D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること]の[生命の尊さ]、小学校第5学年及び第6学年の指導の観点は、「生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」である。本授業の内容は、中学校での「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」へと発展していく。

児童は成長するにつれ、人間の生命の大切さと共に、生きているものすべての生命の尊さについても、理解していくものである。とはいえ、機会がなければ日常的に命のありがたさをかみしめることは少ない。生きている喜びを実感するには、多くの人の支えがあることの認識が大切である。

指導に当たっては、限りある命を輝かせて生きることの尊さや生きることの意義について考え、生命を尊重しようとする態度を育てることが大切になる。また、「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について、体育科保健領域、道徳科、特別活動を通して、教科等横断的に深く考えさせることで、生命を尊重する心情や態度を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級では、これまでに体育科の保健領域の学習「病気の予防」において、病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こること、その予防のために適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておく必要があることを学習してきた。また、日本人の死亡原因の第1位が「がん」であることを学んでいる。しかし、「がん」という病気の名前は聞いたことがあっても「重い病気」「命に関わる病気」などという認識にとどまる児童が多かった。

(令和4年 7月 14日実施)

①がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	そう思う	どちらと いえばそ う思う	どちらとい えばそう思 わない	思わな い
a	がんの学習は、健康な生活をおくるために重要だ。	2 1	6	0	0
b	がんの学習は、健康な生活をおくるために役に立つ。	2 2	4	1	0

②がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	そう思う	どちらと いえばそ う思う	どちらとい えばそう思 わない	思わな い
a	がんは誰でもかかる可能性のある病気である。	2 4	3	0	0
b	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	2 6	1	0	0

c	がんは日本人の死因の第2位である。	2 2	5	0	0
d	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をするこ と、適度な運動をすることなどによって、予防でき るがんもある。	2 2	5	0	0
e	早期発見すれば、がんは治りやすい。	2 1	6	0	0
f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて も良い。	3	2 4	0	0
g	がんの治療法には手術治療しかない。	1 1	1 6	0	0
h	がんの痛みは我慢するしかない。	3	2 4	0	0

③がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	そう思う	どちらと いえばそ う思う	どちらとい えばそう思 わない	思わな い
a	自分はがんにならないと思う。	5	4	9	9
b	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	2 4	1	1	1
c	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う など健康な体づくりに取り組もうと思う。	2 0	7	0	0
d	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受け ようと思う。	1 7	7	3	0
e	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるも のである。	1 0	5	9	3
f	がんになっても生活の質を高めることができる。	5	5	1 0	7
g	がんになっている人も過ごしやすい世の中にした い。	1 9	8	0	0
h	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろう と思う。	1 3	9	4	1
i	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	2 6	1	0	0
j	長生きするためには、健康な体づくりに取り組もう と思う。	2 3	4	0	0

アンケートの結果から、大半の児童が、がんになると今まで通りの生活ができなくなると考えていることがわかった。また、半数以上の児童が、生活の質を高めることはできないと考えていることがわかった。

多くの児童が、がんそのものについては言葉を知っているだけで、大雑把なイメージしかもっていないということがわかった。そこで、がんの治療については、手術や薬の投与だけでなく、患者の強い意志や前向きな気持ちも重要であることに気付かせ、精一杯生きようとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、限られた命を輝かせて生きることや死を意識しながらも生を全うする気高さに触れることを通して、ねらいに迫るものである。猿渡瞳さんが、余命5年と宣告されながらも、生きる希望を失わず、病氣と闘い、生きることの大切さを訴え続けた実話を基にしている。猿渡瞳さんが最後まで自分の生き方を追求する姿を通して、命を輝かせて生きることの素晴らしさについて考えさせることができる教材である。

病氣と闘う主人公の気持ちに共感させながら、精一杯生きることの素晴らしさに気付かせるため、主に次の場面を話し合うこととする。

- ①弁論大会で伝えようとする瞳さんの思い
- ②病氣やけがの人たちの生き方から感じること

主人公の気持ちを押さえながら、自分たちならどうするのか、異なる立場で多面的・多角的に考えさせることで、精一杯生きることの素晴らしさに気付かせる。

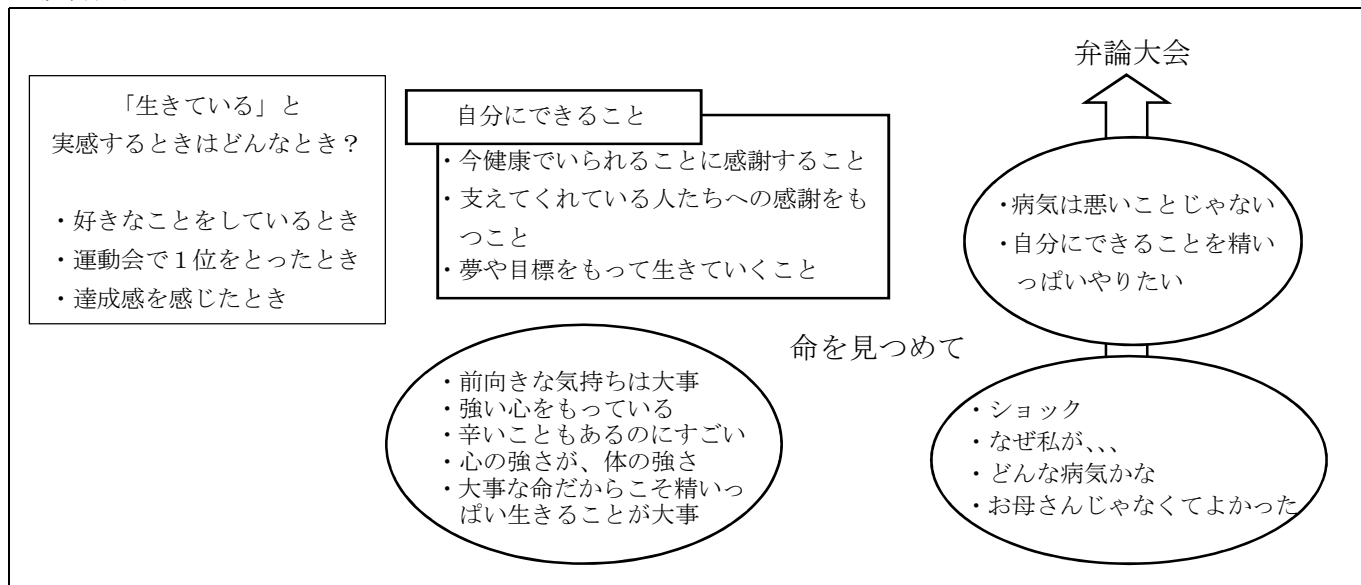
4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 「生きていると実感する瞬間ってどんなとき」のアンケート結果を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことをしているとき 運動会で1位をとったとき 達成感を感じたとき 	・事前にとったアンケート結果からいくつか紹介する。	5
展開	2 教材「命を見つめて」を読んで、話し合う。			5
	(1) 瞳さんが、がんとわかったとき、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ショック ・なぜ私が、、、 ・どんな病気かな ・お母さんじゃなくてよかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で扱ったがん患者の話などを想起させる。 ・入院生活や今後の患者さんの生活の様子を考えさせる。 	5
	(2) なぜ命の大切さを弁論大会で伝えようとしたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・病気は悪いことじゃない ・自分にできることを精いっぱいやりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・死が迫っている状況の中での瞳さんの行動に共感させる。 ・だれに向けてのメッセージなのかを明確にする。 	5
	(3) 病気やけがと闘う人たちの生き方から何を感じますか。(中心発問)	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちは大事 ・強い心をもっている ・辛いこともあるのにすごい ・心の強さが、体の強さ ・大事な命だからこそ精いっぱい生きることが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞳さんの生き方について考えることを通して感じた自分の命の捉え方を基に、病気やけがと闘っている人たちの心情に共感させ、自身と比較しながら考えさせる。 ☆命の大切さや限りあることを理解し、強い気持ちや精いっぱい生きる方法を考えている。(発言) 	10
	3 今までの自分を振り返り、これからの生き方について考える。 ○自分にできることはなんだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・今健康でいられることに感謝すること ・支えてくれている人たちへの感謝をもつこと ・夢や目標をもって生きていくこと 	☆自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考えたり、自分のこれまでの考えを広げたりしている。(ワークシート)	10
終末	4 猿渡瞳さんの弁論大会の動画*を視聴する。		・力強く生きようとする意欲を高める。	5

*動画引用元 アフラック 「生きる」ストーリー 猿渡瞳さん
<https://www.youtube.com/embed/KSUdUEDSLQQ?rel=0>



板書計画



5 他の教育活動との関連

【横断的な単元の教育】(全10時間 保健8時間 + 道徳1時間 + 特別活動1時間)

保健領域		ねらい
① 9/15	病気の起こり方	病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こることを理解できるようにする。
② 9/29	感染症の予防	病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを理解できるようにする。
③ ④ 10/7 10/11	生活習慣病の予防	生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、など、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを理解できるようにする。
⑤ 10/26	喫煙の害と健康	喫煙は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑥ 11/2	飲酒の害と健康	飲酒は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑦ 11/9	薬物乱用の害と健康	薬物乱用は健康を損なう要因となることを理解できるようにする。
⑧ 11/16	地域の保健活動	地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解できるようにする。

特別の教科 道徳 (本時)		ねらい
① 10/19	「命をみつめて」	生命には終わりがあり、かけがえのない生命だからこそ精一杯生きようとする態度を育てる。

特別活動		ねらい
① 10月下旬	自分たちにできること、これからの生き方 外部講師による講話 (R3 草加市立八幡小の実践)	がんについて理解し、健康と命の大切さについて考え、自分が取り組む行動目標を決めることができる。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義や、病気への向き合い方について様々な観点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考えたり、自分のこれまでの考えを広げたりしている。

命を見つめて

田隈中学校2年 猿渡 瞳

みなさん、みなさんは本当の幸せって何だと思いますか。実は、幸せが私たちの一番身近にある事を病気になったおかげで知ることができました。それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく「今、生きている」という事なんです。

私は小学6年生の時に骨肉腫という骨のガンが発見され約一年半に及ぶ闘病生活を送りました。この時医者に、病気に負けなければ命がないと言われ、右足も太ももから切断しなければならぬと厳しい宣告を受けました。初めは、とてもショックでしたが、必ず勝ってみせると決意し希望だけを胸に真っ向から病氣と闘って来ました。その結果、病氣に打ち勝ち右足も手術はしましたが残す事ができたのです。

しかし、この闘病生活の間に一緒に病氣と闘ってきた15人の大切な仲間が次から次に亡くなっていきました。小さな赤ちゃんから、おじちゃんおばちゃんまで年齢も病氣も様々です。厳しい治療とあらゆる検査の連続で心も体もボロボロになりながら、私達は生き続ける為に必死に闘ってきました。しかし、あまりにも現実には厳しくみんな一瞬にして亡くなっていかれ生き続ける事がこれほど困難で、これ程偉大なものかという事を思い知らされました。みんないつの日か、元氣になっていて自分を思い描きながらどんなに苦しんでも目標に向かって明るく元

氣にがんばっていました。それなのに生き続ける事が出来なくて、どれ程悔しかった事でしょう。私のはっきり感じたのは、病氣と闘っている人たちが誰よりも一番輝いていたという事です。そして健康な体で学校に通ったり、家族や友達とあたり前の様に毎日を通りかかるといふ事が、どれほど幸せな事かという事です。例えば、どんなに困難な壁にぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても命さえあれば必ず前に進んで行けるんです。生きたくても生きられなかった皆さんの仲間が命をかけて教えてくれた大切なメッセージを、世界中の人々に伝えて行く事が私の使命だと思っています。

今の世の中、人と人が殺し合う戦争や、平気で人の命を奪う事件、そしていじめを苦にした自殺等、悲しいニュースを見る度に怒りの気持ちでいっぱいになります。一体どれだけの人がそれらのニュースに対して真剣に向き合っているのでしょうか。私の大好きな詩人の言葉の中に「今の社会のほとんどの問題で悪に対して「自分には関係ない」と言う人が多くなっている。自分の身にふりかからない限り見て見ぬふりをする。それが実は、悪を応援する事になる。私には関係ないというのは染かもしれないが、一番人間をダメにさせていく。自分の人間らしさが削られどんどん消えていってしまう。それを自覚しないと悪を平気で許す無気力な人間になってしまう。」と書いてありました。本当にその通りだと思います。どんなに小さな悪に対

しても、決して許してはいけません。そこから悪がエスカレートしていくのです。今の現実がそれです。命を軽く考えている人達に、病氣と闘っている人達の姿を見てもらいたいです。そしてどれだけ命が尊いかという事を知ってもらいたいです。

みなさん、私達人間はいつどうなるかなんて誰にも分からないんです。だからこそ、一日一日がとても大切な事です。病氣になったおかげで生きていく上で一番大切な事を知る事が出来ました。今では心から病氣に感謝しています。私は自分の使命を果たす為、亡くなったみんなの分まで精一杯生きていきます。みなさんも、今生きている事に感謝して悔いのない人生を送って下さい。



市の弁論大会で3位入賞となった作文はその後、社会を明るくする運動作文コンテストに出品され、全国から集まった作品の中から優秀賞を受賞しました。この知らせが届いたのは、残念ながら瞳さんが亡くなった後でした。

※ 2004年7月2日 青少年健全育成弁論大会 (文化会館)。原文のまま掲載しています。

令和4年度がん教育授業研究会（羽生市立新郷第一小学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】参加者総数74名（一般49・来賓等13・会場校10）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出51名）	39	12	0	0

※一般参加者51名の内訳

校長15、教頭2、教諭11、養護教諭18、指導主事2、薬剤師2、医師1



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について

- ・がん＝死のイメージが強いですが、様々な視点からアプローチすることが大切であると感じました。「がん教育」がなぜ必要なのかの理解が深まり、いろいろと考える機会となりました。（小学校・校長）
- ・他教科との横断的、総合的にカリキュラムが組まれていて良いなと思った。体育、特別活動、道徳、それぞれの教科で学んだことが子供たち中で関連付けて考えられるので良かったと思う。自分の学校でもカリキュラムを工夫してみたい。（小学校・校長）
- ・私も子供たちと同様に授業を受けている感覚で参加しました。少し難しい“生きる”というテーマなので子供にとっても少々難しいのではと思って参加しましたが、子供たちにはそれに対し真剣に考え、一人一人がそれぞれの立場で“生きる”ということに対して答え（現時点での）を出していたように思います。素晴らしい価値ある授業だと思います。先生の指示や発問も子供が自然と考える流れを作っていて素晴らしかったです。（小学校・校長）
- ・授業中で「どうして、この発問にしたのかな」「子供たちは、がんというものをどのように捉えているのか？」など、様々な疑問がありました。グループ協議をしていく中で、そして指導者の先生の話聞いていくうちに、頭の中が整理されてきて、大変勉強になりました。（小学校・教諭）
- ・事前にアンケートをとることで本当に幸せについてより深く考えることができました。また、工藤先生が児童の言葉を使いながらまとめていた点がとても勉強になりました。板書もとてもわかりやすく授業の前と後で児童の考え方が変わったことが黒板からわかりました。（小学校・教諭）
- ・本時までに保健の授業の積み重ねがあり、その学びが子供たちの発言に多く出ていました。知識がないと、表面でしか考えないと思うので、改めて難しい内容について考えさせたい時は事前の学びが大切だと思います。各教科との連携により深い学びとなることがより分かりました。（中学校・教諭）

- ・まず、根底にある自他の健康や生命を大切に育てることは、特別支援学校でも改めて継続的に大切にしていかなければと思いました。そのためには、具体的な指導内容や評価(児童の姿の捉え方)を再確認する必要があると感じています。本校においては、中学部高等部との連携や保健等の横断的な視点も必要であると思いました。(特別支援学校・教諭)
- ・体育(保健)で学んだ知識をより自分のことのように考えられる授業だったと思います。命の大切さについて向き合っていた児童一人一人の姿が本当に素晴らしかったです。工藤先生の「どんな言葉でも先生が受け止めるよ」という言葉が、子供たちとの信頼関係に繋がっているのだと感じました。
- ・がんに関する知識を学ぶだけでは他人事で終わってしまいやすいですが、がん患者の思いや生活を児童が考えたことで、身近なものと感じることができたのではないかと思います。本校でも担任の先生と相談して生かしていきたいと思っています。(小学校・養護教諭)
- ・がん教育の一つのアプローチとして「道徳」の授業での進行の一面を見させていただき、薬剤師である自分では考え付かないことであり新鮮であった。授業の展開として、答えを求めるものではないことで自由に子供たちが発言できる点は参考になった。(薬局・薬剤師)

【がん教育についての提案、意見、感想等】

- ・全教育活動を通して健康教育に取り組む中で、特に大切なのはカリキュラム(系統的、横断的、SDGsの視点など)だと再認識できました。家庭との連携(留意すべきこともあるが)もより深めていく必要があると思いました。最も難しいのは、がんで亡くなった家族がいる児童(そのクラス)への授業だと思っています。(小学校・校長)
- ・正直、小学生の子供に「がん教育」について考えさせるのは、とても難しいだろうと考えていました。しかし、「がん」であろうと、他の病気、事故であろうと、今を精一杯生きる、命を大切にすることは同じであるので、このような教育は必要なのだと感じました。(小学校・校長)
- ・本校に持ち帰り、本校においても“生きることの大切さ”や“生命の尊さ”について考える教育を推進する上で参考にさせていただきます。(小学校・校長)
- ・自分の学級にも「小児がん」の児童がおり、病名の告知や扱い方等、悩んでいることばかりでした。今回の研究会で自分なりの考えをもつことができました。(小学校・教諭)
- ・とてもよい題材だと思います。自分が病気になった時だけではなく、周りの人が苦しんでいることに気付ける大人になってほしいと思うからです。また、埼玉県のがん検診率が50%未満であることから、保健・体育の面でも効果のある題材だったと思います。(小学校・教諭)
- ・がん教育をカリキュラム・マネジメントの教科横断的な側面から行うことで、子供たちが自分にも関係のあることとして考えることができるのだと実感しました。(小学校・教諭)
- ・“がん”が身近にない児童にとっては、どうしても“自分事”としては捉えにくいのかな、と感じました。ただ、“ハッ”とする瞬間、「当たり前が当たり前でない」と一瞬気付くひとときがあることが大切だと思いました。また、繰り返し機会を捉えて触れていくことが大切であると感じました。本校においては、がんそのものというよりは、健康や生命、自他に関することといった内容を具体的な指導内容におとして実践に結び付けていくことが今後も大切であると感じました。(特別支援学校・教諭)

- ・がん教育を保健で行うときに教科書で“予防”を中心に教えるが、道徳等で心情に訴える学びがあるといののだなと感じました。医療現場の方からの話も聞けると中学生は知識も増えると思います。外部講師の活用も考えたいです。それほど大事な内容であると学びました。(中学校・教諭)
- ・授業の最後に子供たちが考えた「自分にできること」の内容を見ると、子供たちそれぞれが、命の大切さや病気との向き合い方についてしっかり考えることができていると感じました。(小学校・養護教諭)
- ・授業の実施時期や内容を工夫することで時数を変えなくてもこれほど学びを深められることが分かりました。養護教諭として、がん教育で目指すものを校内で共有し、大切さを知ってもらうことも必要だと感じました。(小学校・養護教諭)
- ・「がん教育」として道徳が入ることは、大変価値のあることだと感じました。知識・理解と共に心情面も押さえた大変効果的な学習になると感じました。(教育委員会・指導主事)
- ・大変素晴らしい勇気をもらえる事象、ケースから学ぶ事、感じる事も沢山あり有意義であると思います。一方で暗いあまり触れたくないような事実があることも確かです。どのように病気や死と向き合っていくのか、がん教育の難しさを感じました。(病院・医師)
- ・がん教育に関わる方は多様であるが、カリキュラムを構築し、保健教育や養護教諭の先生方とも連携できるネットワークを作っていけたらと感じました。(薬局・薬剤師)

【全体会・研究協議の様子】



【授業の様子】





令和4年度埼玉県「がん教育」授業研究会(中学校)開催要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがん教育の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和4年11月29日(火)

4 会 場 小鹿野文化センター1階大会議室
〒368-0105 秩父郡小鹿野町小鹿野167-1
※公開授業：小鹿野町立小鹿野中学校

5 参加対象者 北部教育事務所(支所)管内小中学校、県立中学校、県立及び市立特別支援学校(中学部設置)の教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)、及び教育委員会の指導主事等

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|--------|
| (1) 受付 | 13時10分～ | (ホワイエ) |
| (2) 公開授業 | 13時40分～14時30分 | (大会議室) |
| (3) 全体会 | 14時45分～15時05分 | (大会議室) |
| (4) 研究協議 | 15時05分～16時30分 | (大会議室) |

7 公開授業

学年	授業者	单元名
2年	笠原 勇人 教諭	保健体育(保健分野) 「(1) 健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	松中 直司
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	教育指導幹	大松 武晴
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	咲間 悟
小鹿野町教育委員会学校教育課	指導主事	小野 仁士
埼玉大学教育学部	准教授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教授	儀賀 理暁
熊谷市立玉井中学校	校長	今村 美己
松伏町立松伏第二中学校	教諭	中村 美紀
上尾市立大石中学校	養護教諭	丑木 紅音

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和4年11月29日（火）第5校時
小鹿野文化センター 大会議室
第2学年A組 男子20名 女子15名
授業者 教諭 笠原 勇人

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

2 単元について

我が国において、がんは、昭和56年（1981年）より死因の第1位であり、平成27年（2015）年には、年間37万人が亡くなり、生涯のうちに約2人に1人ががんにかかるとされている。第3期がん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。また、世界保健機関によれば、「がんの約40%は予防できるため、より積極的にがん予防を進めていくことによって、避けられるがんを防ぐことが重要である。」と明記されている。重要な観点として、がんのリスクの減少（1次予防）および国民が利用しやすい検診体制の構築、がんの早期発見・早期治療（2次予防）の促進を図るとともに予防・検診に関する取組を進めることが挙げられる。そのため、生徒に1次予防の観点に着目させ、生徒自身の生活習慣を見直し、より具体的な対策について考えさせるとともに、正しい知識を身につけ、今予防することが将来の健康につながることを理解させたい。

「健康な生活と疾病の予防」については、中学校3学年間を通して扱うこととなっており、第1学年で「健康の成り立ちと疾病の発生要因」及び「生活習慣と健康」、第2学年で「生活習慣病などの予防（本単元）」及び「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」、第3学年で「感染症の予防」及び「健康を守る社会の取組」を学習する。本単元「生活習慣病などの予防」では、これまでに学習してきた、「健康の大切さや健康によい生活。病気の起こり方や予防など。（小学校）」、及び「主体と環境の要因が関わる健康の成り立ちと疾病の発生。適切な運動、食事、休養及び睡眠などの調和のとれた生活習慣による健康の保持増進。（中学校第1学年）」を生かして、「生活習慣病及びがんの予防」について理解を深めていく。また、本単元は、高等学校で学習する「生活習慣病などの予防と回復」へとつながっていく単元である。

本単元においては、生活習慣病やがんについての疾病概念及びその予防などの知識を習得するだけでなく、各内容に関する課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを表現することができるようにすること、学習を通じて自他の健康に関心を持ち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組む態度を身に付けることが必要であると考え。がんを扱うことを通じて、他の様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた健康教育そのものの充実を図るものにしていきたい。

3 生徒の実態

本学級は、明るく元気な生徒が多い。男女間の仲も良く、良好な人間関係を構築できている。保健の授業に対する関心はおおむね高く、グループ活動では、意欲的に学び合いをする姿も見られる。しかし、学力の個人差が大きく、知識の定着やその活用についても差があるため指導に際しては配慮が必要である。事前アンケートの結果から、がんの学習は、健康な生活を送るために必要だと考える生徒が多くいる反面、自分にはがんにならないと思う生徒の割合が多いことから、学習を通じて、がんが身近な病気であることや日頃の生活習慣の乱れなども、がんのリスクを高める原因になることを生徒に気付かせたい。

事前アンケートの結果等（令和4年9月実施）

1) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質 問	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	28	5	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	24	9	0	0

2) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	正しい	誤り
a	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	33	0
b	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	33	0
c	がんは日本人の死因の第2位である。	26	7
d	たばこは吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	31	2
e	早期発見すれば、がんは治りやすい。	27	6
f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	2	31
g	がんの治療法には手術治療しかない。	8	25
h	がんの痛みは我慢するしかない。	6	27

3) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質 問	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない
a	自分はがんにならないと思う。	5	8	6	14
b	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	28	1	3	1
c	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	20	12	1	0
d	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	13	17	2	1
e	がんの治療法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	4	12	8	9
f	がんになっても生活の質を高めることができる。	8	9	9	7
g	がんになっている人も過ごしやすい世の中にした	26	6	1	0
h	いと健康について、まずは身近な家族から語ろう	15	14	4	0
i	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	31	1	1	0
j	長生きするために、健康な体作りに取り組もうと思	26	7	0	0

4 教師の指導観

自分なりの生活習慣を確立させるなど、健康の保持増進について主体的に取り組む態度を育成していきたい。がんは身近にある病気であるにもかかわらず、多くの生徒が正しく理解していない。また、自分事として捉えておらず、健康である生徒が、自分事として実感することは難しい現状がある。しかし、がんを含む生活習慣病などは自分自身の現在の生活とも関わりが深い問題であり、思春期のこの時期に適切な生活習慣を身に付けることが大切であると考え。

指導に当たっては、自分自身の生活を振り返らせ、がんや生活習慣病の要因になりそうなものを生徒同士で考え、意見交換をする中で、将来の自分たちの健康のために、今できる具体的な予防策を考え、実践につながるように指導を展開していく。

5 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。(知識)
- (2) 生活習慣病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。 ② がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。	① 生活習慣病などの予防について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人の生活と関連づけたりして、自他の課題を発見している。 ② がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを活用して、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考え、できることをまとめたり、伝え合ったりしている。	① 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

(2) 指導計画と評価計画（4時間扱い）本時は○印

時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 生活習慣病の起り方	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて理解することができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 望ましい生活習慣について考える 生活習慣病は、日常の生活が要因となって起こる疾病であること、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが健康に及ぼす影響について知る。 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ発表する。 	①			<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈知－①〉
2 生活習慣病の予防	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見できるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、改善すべき生活習慣について考える。 自他の改善すべき生活習慣について、タブレット端末や教科書の資料を活用し、調べ学習を行う。 調べたことをもとに、グループ内で学び合いを行う。 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ発表する。 		①		<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈思－①〉
3 がんについて	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることについて理解できるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には生活習慣病と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であ

	<p>II 学習活動</p> <p>1 がんの発生要因とその種類、健康や生命への悪影響、治療法やがんの現状について概要を理解する。</p> <p>2 (1) がんの発生要因 (2) がんの予防 (3) がんの早期発見と回復 上記の3つにグループを分け、資料を読み解く。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>	②		<p>ることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知-②〉</p>
<p>④</p> <p>がんの予防について</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組むとともに、がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを活用して、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考え、できることをまとめたり、筋道を立てて伝え合ったりすることができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <p>1 前時の学習の振り返りとして、○✕問題を行う。</p> <p>2 予防につながる生活習慣について、現在の自分の生活習慣を焦点化し、その改善に向けた具体策について、資料を活用した調べ学習を行う。</p> <p>3 これまでの学習を元に、オリジナルの新がん12箇条を考える。</p> <p>4 考えた新がん12箇条をグループで共有し、発表する。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、スクールタクトにまとめる。</p>	②	①	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。〈態-①〉 がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを活用して、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考え、できることについてまとめたり、筋道を立てて伝え合ったりしている内容を【観察・ワークシート】で捉える。〈思-②〉

7 本時の学習と指導（4/4）

（1）ねらい

- ・生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組むことができるようにする。
 〈主体的に学習に取り組む態度〉
- ・がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを活用して、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考え、できることについてまとめたり、伝え合ったりすることができるようにする。
 〈思考・判断・表現〉

（2）準備

- ・学習ノート ・ワークシート ・○×の札 ・タブレット端末 ・スライド等の資料 ・スクリーン
- ・ホワイトボード ・マグネット

（3）本時の展開

時間	学習内容 ・ 活動	指導上の留意点 （○指導 ◆評価規準）
導入 10分	<p>1 前時までの学習した内容を振り返り○×クイズを行う。 ※ ○×クイズ王を決める。</p> <p>2 ○×問題の解答から、何でそう思ったのかを問う。</p> <p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○前時の学習を振り返り、学んだ内容をもとに積極的に取り組むよう促す。</p> <p>○○か×かだけでなく、その理由についても説明できるようにする。</p> <p>○がんについて正しい知識を身につけさせる。</p> <p>○本時の課題を確認し、学習の見通しをもてるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> がんはどうすれば予防できるだろう？ 今、自分たちにできることは何だろう？ </div>		
展開 ① 25分	<p>4 話し合い活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 4～5 人班グループ 8 班 </div> <p>○グループ内で調べる内容を焦点化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活とがんについて(2 班) ・適正体重とがんについて(2 班) ・早期発見・早期治療について(2 班) ・小鹿野町の現状について (2 班) <p>○班ごとに資料を分析し、読み取ったことから改善策を考える。</p> <p>○資料をもとに見つけた課題や分析してわかったことを班内で発表しあい、わからないことは互いに質問する。</p>	<p>○資料やグラフから読み取り、調べる内容を明確に意識できるようにする。</p> <p>○資料を適切に活用し、学んだことを相手に分かりやすく伝えるよう促す。</p> <p>○グループ内の発表を聞いて、他者の意見からキーワードとなる言葉をメモするよう促す。</p> <p>○資料を活用し、まとめた内容を分かりやすく発表できるようにする。</p> <p>○発表後、発表した内容について教員が補足する。</p>

	<p>○班ごとにまとめた内容を発表する。 ※ 発表は各班 1 分程度</p> <p>○他の班の発表を聞きながら、キーワードをメモする。</p> <p><予想される生徒の反応> A 食生活とがんについて ・嫌いな食べ物（野菜など）がいがいとがんのリスクを下げる。 B 適正体重とがんについて ・やせすぎも太りすぎもだめ。小鹿野中の生徒は痩せすぎが多いので、食生活を見直したい。 C 早期発見・早期治療について ・がん細胞は 10 年～20 年で見つかる大きさになるので、自覚症状がない時に検診をして発見することが大切。 D 小鹿野町の現状について ・県内市町村の中で、小鹿野町はがんの受診率が高いし、早期に見つかれば助かる確率が 90%以上と高いので、私も受けられる年齢になったら受診したい。</p>	<p>○他の班の発表を受けて、気づいたことをワークシートにメモするように促す。</p> <div data-bbox="900 392 1455 651" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。【観察・ワークシート】 〈主体的に学習に取り組む態度〉</p> </div> <div data-bbox="900 689 1455 1133" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」 (C) の生徒への手立て（支援） 机間指導を行いながら、気づきを促すための声かけを行っていく。 「十分満足できると判断される状況」 (A) の生徒の具体的な姿 自分が調べた内容を意欲的に発表している。他者の意見を取り入れ、より良い予防策を考えることができている。</p> </div>
<p>展開 ② 10 分</p>	<p>5 学んだことをもとに、今から自分たちに行うことができることとして、新がん 1 2 箇条ならぬ、新がん○箇条を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p><予想される生徒の反応> ・好きな物だけ食べるのではなく、嫌いな野菜も一口は食べる。 ・自覚症状がなくとも大人になったら、必ず検診を受ける。 ・適正体重を維持するためにバランスの良い食事をする。 ・小鹿野中の 2 年生はやせの体質が多いので、ダイエットしないように呼びかける。 ・お肉にサンチュを巻いて食べる。</p>	<p>○学んだ内容から、自分なりの新○箇条を考えるように促す。</p> <div data-bbox="900 1603 1471 1901" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを活用して、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考え、できることについてまとめたり、筋道を立てて伝え合ったりしている。【観察・ワークシート】 〈思考・判断・表現〉</p> </div>

	<p>○数人の生徒が自分なりに考えた新がん○箇条を発表する。</p> <p>○スクールタクトにまとめを記入する。</p> <p>○隣の生徒とまとめた内容を伝え合う。</p> <p>○数人の生徒がまとめを発表する。</p> <p><予想される生徒の反応></p> <p>・私は今まで好きな食べ物（お肉類）をお腹いっぱいになるまで食べていたけれど、他の班の発表を聞いて、野菜や果物はがんのリスクを下げることを知ったので、今後はバランスの良い食事を心掛けていきたいです。</p> <p>私が考える新がん○箇条は、今後は嫌いな野菜も必ず一口は食べるです。</p>		<p>○自分で考えた新がん○箇条を堂々と発表させる。</p> <div data-bbox="895 331 1465 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」 (C) の生徒への手立て（支援） 机間指導を行い、自分の考えがまとめられるようにキーワード等を伝える。 自分の現在や将来の生活習慣に結ぶ付けることができるようにする。 「十分満足できると判断される状況」 (A) の生徒の具体的な姿 生活習慣などは、自分自身で改善できる予防方法があること。また、誰でもがんになる可能性があるので、がん検診や早期治療が大切であることを理解し、自分なりの新○箇条の予防法を考えることができている。</p> </div>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○生徒の発表から、本時の課題に対するまとめを行う。</p> <p>6 教師の話聞く</p>		<p>○本時のまとめを行い、がんの発生要因は様々であることから、「がんになった人」の原因全てが「生活習慣が乱れている人」ではないことを伝える。しかし、今現在、私たちができる予防策としては、生活習慣を整えることや、早期発見・早期治療、検診等であることを伝える。</p> <p>○本時のまとめを行い、がんを予防するための望ましい生活習慣と検診の必要性について再確認する。</p>

8 板書計画

「課題」

がんはどうすれば予防できるだろう？ 今、自分たちにできることは何だろう？

<○×問題の内容>

「まとめ」

適正体重を維持する。

バランスの良い食事を心掛ける。

給食を残さず食べる。

大人になったら、検診を受ける。

9 事後指導

本単元の実施後、学級活動（2）の「エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」で教科等横断的に扱うこととし、町内にある小鹿野町立病院院長である内田医師を招き、「いのちの大切さ」「将来がんや病気にならないために今からできること」「がんになった時にどう向き合っていくか」について、講話していただく。その際、緩和ケアについても触れていただくことで、生徒の将来を見据えた学習として位置付けたい。

2年組番氏名

◇今までの学習を振り返り、がんについてのクイズ王を決めます！！
全部で10問出題するので、○✕札を使って答えよう！

君は何問正解できるかな？ !(^)!

問題	1問	2問	3問	4問	5問	6問	7問	8問	9問	10問
自分の 答え										
正解										

私は、、、「10問中 間」正解しました🐱

<本時の課題>

「がんはどうすれば予防できるだろう？ 今、自分たちにできることは何だろう？」

「資料を基に各班ごとに調べ学習を行おう」

- 食生活とがんの関係について(1.6班)
- 適正体重と小鹿野中の関係について(3.7班)
- 早期発見・早期治療について(2.5班)
- 小鹿野町の現状について(4.8班)



他の班の発表を聞いて、メモをとろう。

◇私が考える新がん〇箇条はこれだ！！ ※できるだけたくさん書こう！！

- 第1箇条・・・

第2箇条・・・

第3箇条・・・

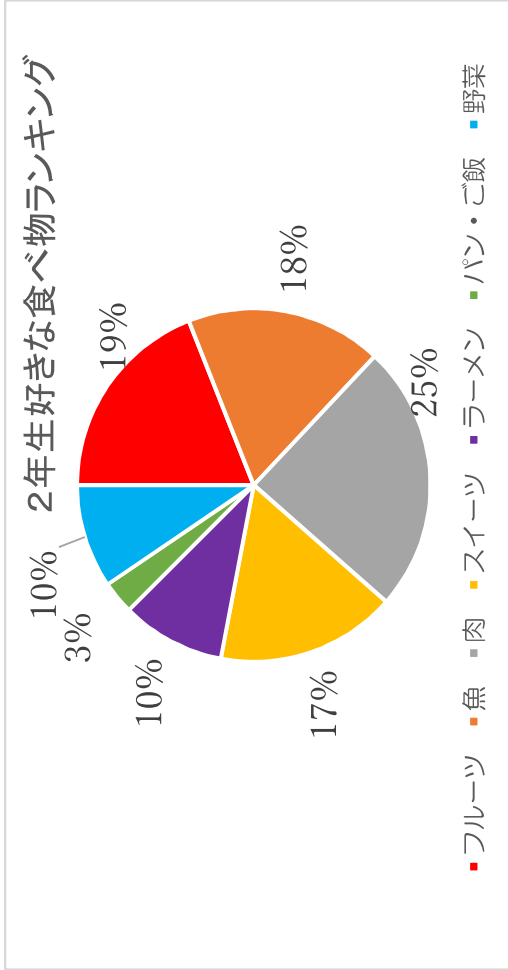
第4箇条・・・

<本時の振り返り>

- ① 今日の授業を受けて学んだことスクールタクトに記入しよう！
- ② スクールタクトに記入したら、隣の人と発表し合おう！
- ③ 先生の話进行こう！

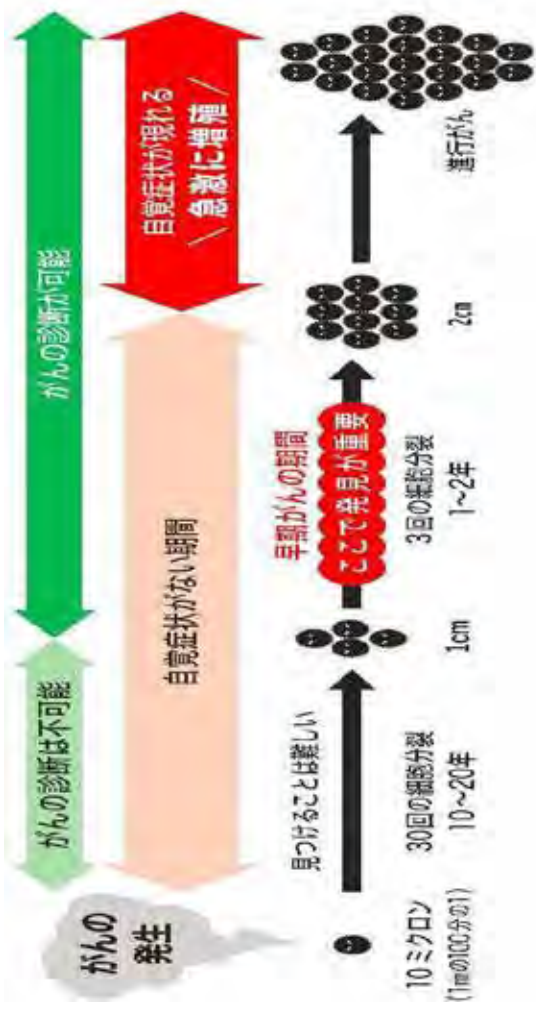
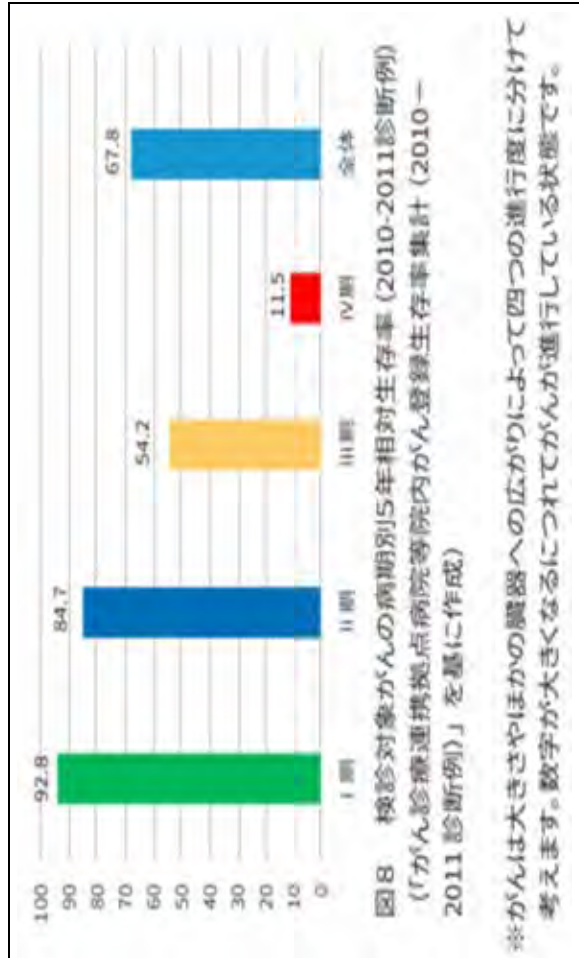
↑ (上向き矢印) はがん発生の促進効果ありを意味し、↓ (下向き矢印) はがん発生を抑制する効果があることを意味する。
 (↑↑, ↓↓) は顕著、(↑, ↓) は中等程度。

食品	食塩	肉	大腸	肝臓	肺	乳癌	前立腺
野菜	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓
果物	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↓
脂肪類	↓	↓	↓ (肉類・加工肉)	↓	↓	↓	↓
塩分	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
アルコール	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
熱い飲食物	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑



2つの資料を比較して、気づいたことをメモしよう

発表原稿

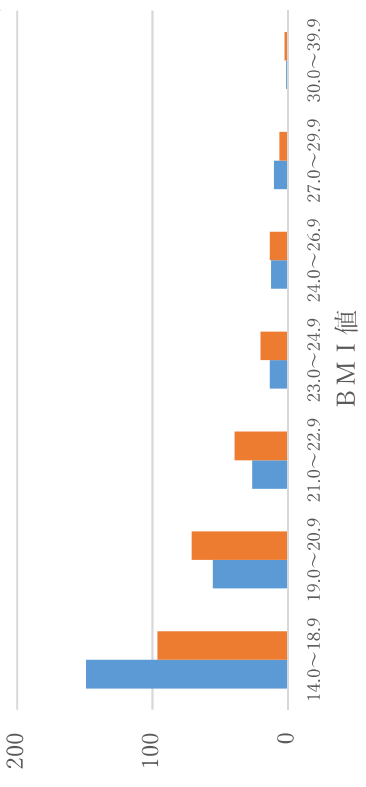


2つの資料を比較して、気づいたことをメモしよう

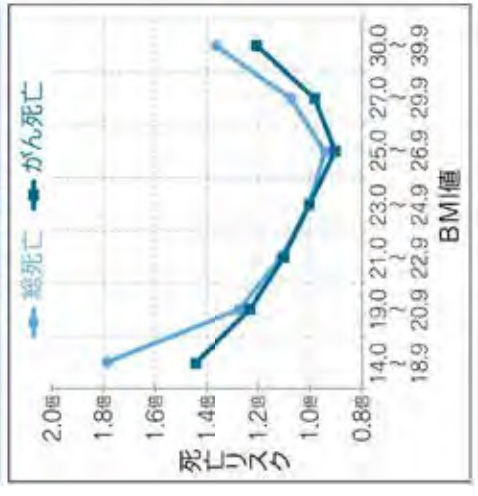
標準値

BMI	14.0~18.9	19.0~20.9	21.0~22.9	23.0~24.9	24.0~26.9	27.0~29.9	30.0~39.9
男子	149	55	26	13	12	10	1
女子	96	71	39	20	13	6	2

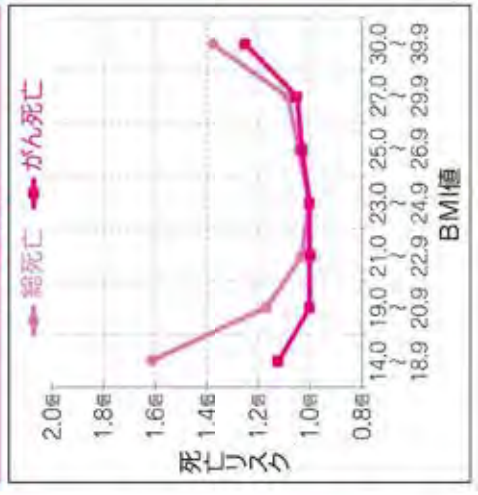
小鹿野中学校 中2過去5年のBMI 男... 女...



男性16万人



女性19万人



2つの資料を比較して、気づいたことをメモしよう

発表原稿

食生活とがんについて

他の班の発表を聞いて気づいたことをメモしよう！

- ①
- ②
- ③
- ④

適正体重とがんについて

他の班の発表を聞いて気づいたことをメモしよう！

- ①
- ②
- ③
- ④

早期発見・早期治療について

他の班の発表を聞いて気づいたことをメモしよう！

- ①
- ②
- ③
- ④

小鹿野町の現状について

他の班の発表を聞いて気づいたことをメモしよう！

- ①
- ②
- ③
- ④

R4 がん教育

- ▶ 小鹿野町立小鹿野中学校
- ▶ 教諭 笠原 勇人
- ▶ クラス 2年A組

前時までに学んできたことを復習しよう！

- ▶ ここで○×問題です。
- ▶ 今までの学んできたことを生かして、がんについてクイズを10問出題します♻
- ▶ 2Aのクイズ王を決めましょう！！

第1問

- ▶ 焦げた食べ物を食べるとがんになりにくくなる。



第2問

- ▶ 日本人の3人に1人はがんになっている。



第3問

- ▶ がん細胞は10年～20年かけて1cm程度の大きさになる。



第4問

- ▶ がん検診でがんを早期発見すると、早期がんであれば約6割の人が治る。



第5問

- ▶がんは初期の段階では自覚症状がないまま、進行する。

第6問

- ▶小鹿野町のがん検診の受診率は、
- ▶埼玉県内63市町村の中だと高い。

第7問

- ▶小鹿野町では無料で受けられるがん検診がある。

第8問

- ▶喫煙や過度な飲酒はがんになるリスクを上げる。

第9問

- ▶熱いものを食べると、がんになるリスクが高くなる。

第10問

- ▶生活習慣を改善することで、がんになるリスクを下げることができる。

がんのクイズ王は君だ！！

「本時のねらい」

がんはどうすれば予防できるだろう？
今、自分たちにできることは何だろう？

資料を基に各班ごとに調べ学習を行おう

- ▶ ○食生活とがんの関係について(1.6班)
- ▶ ○適正体重と小鹿野中の関係について(3.7班)
- ▶ ○早期発見・早期治療について(2.5班)
- ▶ ○小鹿野町の現状について(4.8班)

※ まずは分析をする。その後、分析結果からどうしていけば良いか考える。

「発表までの流れ」

- ▶ ①班ごとに資料から内容を読み取り、調べ学習を行う。
 - ワークシートに記入しながら、取り組もう！
- ▶ ②班で調べた情報を共有する
 - 発表原稿を完成させよう！
 - 各班ごとに発表する。 各班1分×8班
 - 他の班の発表を聞きながら、気になることはメモをとる。
- ▶ ※ここが大事！！

自分なりの新がん〇箇条を考えよう！

- ▶ 今日の調べ学習や各班の発表を聞いて、自分なりの新がん〇箇条を考える。
- ▶ ※自分が今後取り組んでいきたいことや、気をつけていきたいことを記入しよう。※書けるだけ書いて良い。

「がんを助ぐための12か条」新旧比較

	がんを助ぐための12か条 (1976年)	がんを助ぐための新12か条 (2011年)
1条	バランスのとれた栄養をとる	たばこは吸わない
2条	毎日、変化のある食生活を	他人のたばこの煙をできるだけ避ける
3条	食べすぎを避け、脂肪は控えめに	お酒はほどほどに
4条	お酒はほどほどに	バランスのとれた食生活を
5条	たばこは吸わないように	塩辛い食品は控えめに
6条	家畜肉から過量のビタミンと繊維質のものを多くとる	野菜や果物は豊富に
7条	塩辛いものは少なめに、あまみ物・酸味ものは増やしてから	過度に運動
8条	揚げた部分は避ける	適切な体重維持
9条	かびの生えたものに注意	ウイルスや細菌の感染予防と治療
10条	日光に当たらず暖かい	定期的ながん検診を
11条	適度にスポーツをする	身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
12条	検診時間	正しいがん情報でがんを知ることから

旧12か条にあった「揚げた部分を避ける」など(赤字)が新12か条ではなくなり、「たばこ」についての項目(青字)がトップに2つ掲げられた。

<書き方>

- ▶①自分の今までを振り返る。
- ▶②今日の授業を受けて感じたことを書く。
- ▶③今後はこうしていきたい。
- ▶④笠原勇人が考える新がん〇箇条は～です。

本日学んだことをスクールタクトに記入し、発表しよう!(^^)!

▶<例>

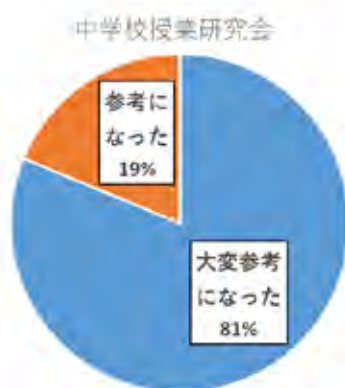
- ▶ 私は今まで好きな食べ物（お肉類）をお腹いっぱいになるまで食べていたけれど、他の班の発表を聞いて、野菜や果物はがんのリスクを下げることを知ったので、今後はバランスの良い食事を心掛けていきたいです。
- ▶ 私が考える新がん〇箇条は、
- ▶ 嫌いな野菜も、毎食必ず一口は食べるです。

令和4年度がん教育授業研究会（小鹿野町立小鹿野中学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】参加者総数57名（一般21・来賓等11・会場校25）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出16名）	13	3	0	0

※一般参加者21名の内訳：校長1、教頭1、教諭8、養護教諭11



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について

- ・50分間とは思えない充実した内容の授業展開でした。導入の「〇×クイズ」をはじめ、「小鹿野町や小鹿野中学校についての資料を用いたグループ活動」もとても良かったです。資料の工夫で、生徒にとって身近な問題に感じることができていました。また、各グループでの内容を全体で共有し、それを踏まえて自分なりにまとめる流れも参考になりました。（小学校・教諭）
- ・自分の事だけでなく、身近な人への対応や生活について生徒たちがよく考えていた。（先生の発問や指示が上手で生徒の活動がスムーズだった。）（中学校・教諭）
- ・グループ毎に違う課題を与えることで「がん」に対して多面的な考え方ができると感じました。ある統計データと自分たちの身近なデータ（小鹿野町の受診率や小鹿野中生のBMI）を使うことで生徒の興味・関心を引き出せていたと思いました。（中学校・教諭）
- ・授業者によるテンポの良い授業と、生徒の掛け合いのような授業、素晴らしかったです。生徒の前向きな姿勢が素敵でした。あっという間の1時間でした。（小学校・養護教諭）
- ・家族のことに考えをめぐらせることができているというのは、十分に“自分事”として捉えている証拠ではないかと感じました。その様子から、この後の発展的な学習にも抵抗なく取り組みたくさんのことを吸収していくのだろうと感じました。（小学校・養護教諭）
- ・前時までの復習を「〇×クイズ」で行うことで生徒の関心が高まっていたと思います。また、新しく知る内容にも生徒は嬉しそうに学んでいました。各グループの話し合いも、先生の的確なアドバイスもあってか、見ている者が驚くような発見も見られるなどとても充実していました。（小学校・養護教諭）
- ・ICT機器を活用することにより、発表もスムーズで非常に便利であると感じました。（小学校・養護教諭）
- ・研究協議の場で、保健体育科教諭と養護教諭とで話し合うことができ、連携の在り方について、有意義な意見交換ができた。（中学校・養護教諭）

【がん教育についての提案、意見、感想等】

- ・がん教育の幅広さを感じました。自分事として考えさせることが大切なので、どんな角度から迫っていくのが教師の指導観となるなと思いました。これから沢山研究していきたいと思います。(中学校・教諭)
- ・身近な問題として捉えるとともに、病気の怖さも教える必要性を感じました。実際に経験した人の話や医師の話など、実体験を踏まえた話を生徒が聞くことで、考え方も広がっていくと感じました。系統性をもって高校につなげていくことも必要だと感じました。(中学校・教諭)
- ・2人に1人はがんになるという時代なので、保健の授業だけではなく学級活動等の時間にも取り入れ、学校全体で取り組む必要があると思った。(中学校・教諭)
- ・教材研究は重要であるが、働き方改革の視点で、がん教育の参考となる指導事例があると授業がしやすくなると感じている。また、コロナ禍ではあるが、今回のような授業研究会に参加することは有意義であると改めて感じた。(小学校・養護教諭)
- ・小学校では、「がん」に特化した取組は難しいと思うが、薬物乱用防止教室などに関連させた取組なども検討していきたいと思いました。(小学校・養護教諭)
- ・現在の限られたカリキュラムの中では、保健の授業だけで学びを深めていくことは難しいので、教科等横断的な視点による学校の教育活動全体での取組が重要だと感じました。(中学校・養護教諭)
- ・「がん」という言葉から指導が難しいなど思っていたのですが、本日の授業を参観して、身近なことから広げていくことができること、今までやっていたことに「がん」という視点を含めていくことができることが理解できました。(中学校・養護教諭)
- ・生徒が「早期発見を」と予防の方法としてあげていましたが、今自分は検診の対象ではない。したがって「家族にすすめようと思う」と発言していて、“今できること”を考えられていると同時に、未来につながる健康教育の重要性を実感しました。“熱いものを食べるとがんになる”というクイズが出たときの子供たちの反応のようにインパクトがあって未来に残る指導の工夫をしていきたいと考えます。(中学校・養護教諭)

【全体会・研究協議の様子】



【授業の様子】



令和4年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）開催要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和4年11月16日（水）

4 会 場 県立松山女子高等学校
〒355-0026 東松山市和泉町2番22号
※駐車場がありません。公共交通機関で来校願います。
※会場案内参照

5 参加対象 高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

6 日 程

(1) 受 付	13時00分～	(2階 会議室)
(2) 公開授業	13時30分～14時20分	(3階 視聴覚室)
(3) 全体会	14時30分～14時45分	(2階 会議室)
(4) 研究協議	14時45分～16時30分	(2階 会議室)

7 公開授業

学年	授業者	単元名
1年	大久保 亜耶 教諭	保健体育科（科目保健） 「(1) 現代社会と健康」 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	松中 直司
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主任指導主事	遠井 学
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	咲間 悟

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
県立熊谷西高等学校	校 長	金室 紀夫
県立新座高等学校	教 諭	大屋 将人
県立杉戸高等学校	養 護 教 諭	米本 真弓
県立東松山特別支援学校	養 護 教 諭	津久井美緒

保健体育科（科目保健）学習指導案

令和4年11月16日（水）第5時限 被服実習室

第1学年4組 女子40名

指導者 大久保 亜耶

1 単元名 「現代社会と健康」(ウ)生活習慣病などの予防と回復

2 単元について

「現代社会と健康」(本単元)では、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。

本単元では、以下の内容を中心として構成される。

- ① 我が国において現代の健康課題がみられることや健康の考え方が変化してきていること
- ② 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること
- ③ 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること
- ④ 生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること
- ⑤ 喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること
- ⑥ 精神疾患の早期発見や罹患後の対策が必要であること

以上を踏まえた上で、今年度から高等学校において年次進行で実施となる新学習指導要領の「がん教育」の内容については、(ウ)生活習慣病などの予防と回復の時数を4と定めることとし、そのうちの2時間を充てるものとする。生活習慣病の予防(1次予防)に加えて、早期発見・早期治療(2次予防)への理解と個人の取組に限らず、健康診断やがん検診の普及、がんの治療と仕事の両立のための社会的整備など対策が必要であることを理解すること。

3 生徒観 (学習状況の実態)

真面目で前向きな生徒が多い。学習に対しては、課題と向き合って解決策を導こうとする生徒とそうでない生徒の差が大きくあり、正しいことがわかっていても行動にうつせない様子がみられる。課題に対して、個人でしっかり考えること、そして仲間と協力することで一人一人の実践力が育まれると考えている。アンケートの結果から、「がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う」「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」「長生きするために健康な体づくりに取り組もうと思う」の項目に対して全員が「そう思う」と回答していた。がんについて学ぶことが自分の健康につながると理解しているので、さらにその知識を深め、個人だけでなく広い視野で捉えて、周囲の人へ伝える力を引き出せるような授業展開にしていく必要がある。

4 教師の指導観

がん教育を通じて、他の様々な疾病の予防や望ましい生活習慣が確立できるよう健康教育を充実させていく。また、資料の読み取りやグループ学習を通して、がんをより身近な病気として捉えることができるようにし、予防、早期発見・早期治療、検診、治療と仕事の両立について関心をもち、理解を深めていく。生徒が自由に発言できる雰囲気をつくり、主体的に参加できる授業を行っていくよう努める。がんについての学習に限らず、自他の健康に関心をもち、その課題を解決し、明るく豊かで活力ある生活を営む資質や能力を育てていきたいと考えている。昨年度より、中学校の新学習指導要領によるがん教育が全面実施となり、移行期間を含めて現高1はがん教育を受けているが、実態は各学校によるため、基礎的な知識も含め丁寧な指導を心掛けながら、適切な理解を促していく。

I 学習（指導）内容の明確化

学習内容の理解と深まりを図るため2時間扱いとするが、LHRの時間を使い事後学習を行う。

- ・1時間目：がんの基本的な知識の習得(種類、要因、わが国の状況、予防、検診、治療、緩和ケア)などについて学習する。話し合い活動を通して、予防・検診・治療と仕事の両立について理解を深める。
- ・2時間目：がんの予防・検診・治療と仕事についてグラフや表から情報を読み取り、共有し、理解を深める。自他の健康のために自らがどのようにがんと向き合っていくべきかを考え、意見を共有し、実践力の育成につなげる。
- ・事後学習：LHRにて、ワークシートの課題「がんに対するイメージの変化や新しく知り得た知識」について班内、クラス内で共有する。がん患者経験談の動画を視聴し、働くことと健康、自分らしく生きることについて話し合う。

II 基礎的・基本的な知識の習得と知識を活用する学習活動の実践

1時間目の活動では、一斉教授型の授業スタイルでがんに関する基本的な知識の習得を目指すことに加えて、自らが課題を見つけ、話し合いをする中で、適切に対応するための方策(予防・検診・治療と仕事の両立)について考える機会とする。2時間目の活動では、1時間目で学習したがんについての知識や理解したことを共有して、より深い学びにつなげる学習活動を展開する。また、対話的な活動を行い、指導のねらいである「がんとどのように向き合っていくか」を一人一人が導きだし、実践していけるようにする。

III 学習内容を主体的に取り組ませるための教材の工夫

- ・ICTの活用
本時では、プレゼンテーションソフトを活用して授業を展開する。豊富な情報を効率的に生徒に提供でき、視覚的に見やすくわかりやすいことから生徒の理解の促進につながると考える。また、板書する時間を省略することができ、生徒の活動時間を確保することや生徒の思考の助けとなることなどが期待できる。
- ・資料の工夫
配布する資料を色付きで作成し、生徒が興味・関心を持ちやすいよう工夫することで、学習意欲の向上につなげる。また、グラフや表等の視覚に訴える資料の提示により、生徒の思考を促す一助とする。
- ・各グループにPCを設置し、前の画面を共有することで、資料もより見やすくなる。

5 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防と回復について、理解することができるようにする。
- (2) 生活習慣病などの予防と回復に関する情報から自他の課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を向上したり、健康を支える環境づくりにつなげたりする視点から、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。
- (3) 生活習慣病などの予防と回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原	①生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ②生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選	①生活習慣病などの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。

<p>困もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	
---	---	--

(2) 単元の指導と評価の計画 (4時間扱い) 本時 4/4 時

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1 生活習慣病などの予防と回復	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができるようにする。 生活習慣病などの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 概要説明 発表準備(ICT活用) <ul style="list-style-type: none"> 脳血管疾患 虚血性心疾患 高血圧症 脂質異常症 糖尿病 歯周病 <p>以上の項目から選び発表する。同時に予防と回復についてもまとめさせる。</p> 発表練習 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などについて調べる際には確かな情報であるかに留意し、発表準備を進めること 			①	① 観察・ワークシート
2 生活習慣病などの予防と回復 II	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解できるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の復習 発表 振り返り・まとめ <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること。 生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断や正しい情報の発信など社会的な対策が必要であること。 日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣 	③			観察・ワークシート

	病などの予防と回復に有効であること。また、運動や食事について性差による将来の健康課題があること。				
3 生活習慣病などの予防と回復Ⅲ	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解できるようにする。 <p>※原因については次回の授業で詳しく扱うこととする。</p> <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本人の死因について 2 がんの基本的知識 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国のがんの現状 ・がんとは何か ・がんに罹る要因 ・がんの種類 3 グループ活動 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、原因も様々にあること。 ・誰にでもがんにかかる可能性があり、確かな知識をもとに予防していくことが大切であること。 	②			観察・ワークシート
④ 生活習慣病などの予防と回復Ⅳ	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解できるようにする。 ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時の復習 2 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・がんと生活習慣の関係から予防のためにできること ・がんの早期発見とがん検診の重要性と受診率をあげるために必要なことはなにか ・治療と仕事を両立するために大切なことはなにか 3 がんと向き合っていくうえで大切なことは何か <ul style="list-style-type: none"> ・家族や身近な人、将来の自分に向けてメッセージを考える <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは誰にでも起こりうるものである。罹患の危険性を減らすために、生活習慣の改善を図るなど、いまの自分にできることを心がけることが必要であること。 ・日頃の生活習慣の中で、がんに罹る原因となるものは何かを判断すること。 ・定期的に健康診断やがん検診などを受診することが、がんを早期発見し、治す可能性を高めること。 	①			観察・ワークシート
			②		観察・ワークシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者と共に生きる社会をつくっていくために大切なことは正しい知識を理解すること。企業などでも社会的な取り組みが推進されていることを知る。 				
--	--	--	--	--	--

7 本時の学習と指導 (4/4)

(1) ねらい

- ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解できるようにする。 【知識・技能】
- ・生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 【思考・判断・表現】

(2) 資料及び準備するもの

大型テレビ、ノートパソコン(教師用1台、生徒用9台)、ワークシート、消毒グッズ

(3) 展開

時間	学習の内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 10分	1 挨拶・出席確認	○挨拶、出欠・座席の確認をする。
	2 本時の説明と確認	○本時の学習の流れを理解し、学習の見通しをもたせる。
<p>課題 がんと向き合っていくうえで大切なことは何か</p>		
展開 35分	3 前時の振り返り ・がんの基礎知識(種類、要因、わが国の状況、予防、検診、治療、緩和ケア) ・グループ活動の振り返り	○前時の内容「がん」の基礎知識について確認する。 ○グループ活動をそれぞれ振り返らせる。
	4 グループ活動の発表(15分) グループA グラフや表の読み取り がん予防のために私たちができることは何か?	○課題について、班ごとグループごとのワークシートにまとめたものを発表させる。 ○各資料につき2班ずつ発表させる。 ○各班の発表をしっかりと聞き、差異にも注目しながらメモを取るよう促す。 ○ウイルス・細菌感染について補足説明をする。 ○がんには原因のわかっていないものも多くあり、がんになった人すべてが生活習慣が悪かったからという誤った印象を与えないようにする。 ○総死亡とがんの死亡リスクの違いが出なかった場合、補足説明をする。 ○女性は特に閉経後、肥満が乳がんのリスクになることが報告されていることを伝える。 ○運動することやバランスの良い食生活を整えることで、がんのみでなく心疾患や脳卒中、糖尿病などのリスクも減らすことができ健康で長生きすることにつながるという視点で話す。 ○生活習慣の実践により、がんのリスクを減らせることを確認し、具体的な取組についても考えさせ、発表させる。 ○「がんを防ぐための新12か条を」提示し、新たに追加された項目についてふれる。正しい情報を得ることの留意点について話す。

(予想される回答)

- ①男性の 50%、女性の約 30%が生活習慣や感染が原因だということ。
男性では喫煙・飲酒の割合が高くなっている。
- ②男女ともがんを含むすべての原因による死亡リスクは太りすぎでも痩せすぎでも高くなる。
がんの死亡リスクは、男性は肥満よりも痩せている人の方が高くなる。
- ③野菜や果物がいくつかのがんに対して抑制的に働く。
肉類やアルコールはいくつかのがんのリスクをあげる要因になっている。
飲食物を熱い状態でとると食道がんのリスクがあがる。

グループ B

グラフや表の読み取り

がん検診の受診率をあげるために必要なことは何か？



(予想される回答)

- ①がん検診受診率は 50%を超えていないものが多いが、年々少しずつ上がってきている
- ②受ける時間がない、必要性を感じないが多い。
自覚症状などがでて検診以外(病院の診察)で発見されるよりも、がん検診で発見された方が生存率があがる。

- 早期発見により、生存率があがることを理解させる。一方で、受診率には課題があることに着目させる。
- 受診率が少しずつあがってきているということは、国や各自治体の働きかけや取り組みがされているということを知らせる。費用や時間など正しい知識を伝え、受診率をあげるために必要なことを考えさせる。

グループ C

グラフや表の読み取り

治療と仕事を両立するために大切なことは何か？



(予想される回答)

- ① 約 20%の人ががん診断後に退職・廃業した。そのうち、約 60%の人が治療の開始前に退職している。
- ② 治療と仕事の両立が難しいと考えている理由に周囲のことを精神的に意識している項目が多い。

以上、グラフや資料や表からがんの予防、がん検診、治療と仕事の両立について理解し、改めて自分はどういうがんと向き合っていくか深く考える。

5 問題提起・課題解決

【発問】
がんと向き合っていくうえで大切なことは何か、家族や身近な人、将来の自分に向けてメッセージを考えよう。

個人で考える

班内で発表 (1 人 30 秒)

代表の 3 つの班が全体発表

6 発表 (3 分)

- がんに罹患する＝離職と結びつけるのではなく、どのように両立していけるかを考え、実践していくことの重要性を伝える。(生徒自身の学校生活を事例で取り上げ理解を深める ex. 勉強と部活)
- 企業で働く大人たちへのがん教育も必要であり、一人一人の理解が社会全体への理解へつながるということを伝える。
- がん対策推進企業アクションを紹介し、さまざまな社会的対策の必要性を理解させる。
- 定年延長、女性の社会進出という背景と働くことの意義について考え、がん患者と共に生きる社会の実現に向けて理解させる。

◆生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であること、がんの治療と仕事の両立について、理解したことを言ったり書いたりしている。 **【知識・技能】**

「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て
 △グラフや表の数値の部分に着目させる。
 △前時のメモや仲間の発言を参考にさせる。
 「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿
 ○前時の授業で得た知識と実際の生活行動を結び付けて、自分の考えを発言している。
 ○周りの意見をメモするなど、自分の考えに取り入れている。

◆がんと向き合っていくうえで大切なことは何か、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 **【思考・判断・表現】**

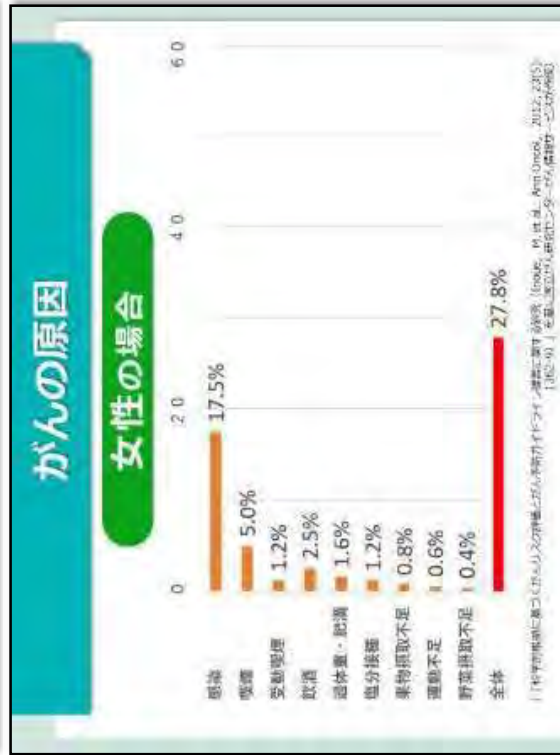
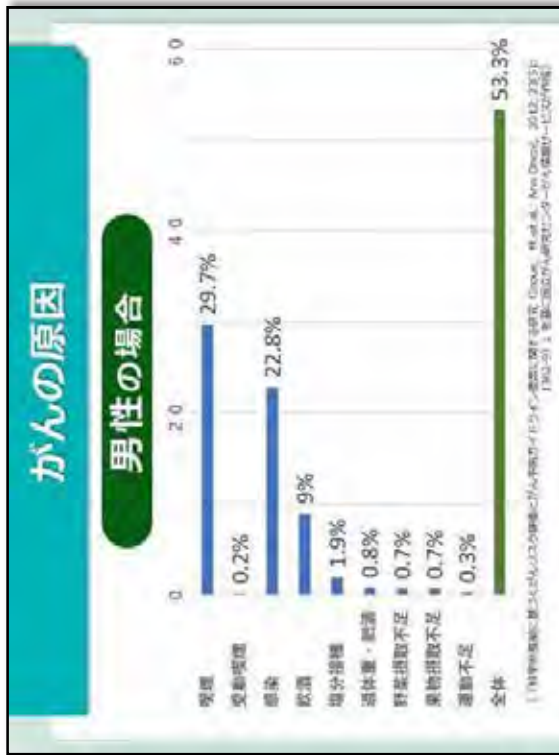
「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て
 △各グループの発表内容から、キーワードを確認させるとともに、身近な生活の中にあるヒントに着目するよう促す。声掛けを行う。
 △仲間との話し合いの中で自分なりに考えさせる。
 「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿
 ○具体的に受診率の向上に向けて方策を示し、自分の考えについて筋道を立てて説明している。

- クラス全体で共有する中で、理解を深める。

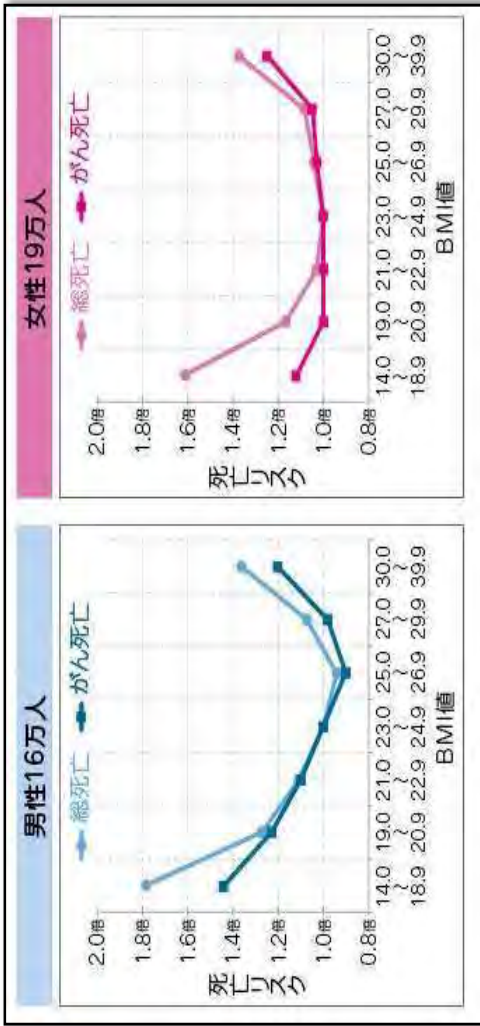
終末 5分	7 振り返り・まとめ・次回予告	<p>○がん予防の重要性を振り返るとともに、自分や家族、身近な人の健康な体づくりのために、学んだことを実践していけるよう伝える。</p> <p>○ワークシートに今回の自分の中で起こったがんに対するイメージの変化や新たな理解について記述させる。(宿題)</p> <p>○次回の LHR にてクラス内で共有する。</p>
	8 挨拶	○挨拶

資料A

☆グラフや表から読み取れることは何か？
 ☆がん予防のために私たちができるとは何か？



BMI：肥満度を表す体格指数・体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m) で算出される



国立がん研究センターがん情報サービス

社会と健康研究センター予防研究グループ「肥満指数(BMI)と死亡リスク」より作成

↑(上向き矢印)はがん発生の促進効果ありを意味し、↓(下向き矢印)はがん発生を抑制する効果があることを意味する。
 (↑↑, ↓↓)は確実、(↑, ↓)は可能性大

食習慣	食道	胃	大腸	肝臓	肺	乳房	前立腺
野菜	↓						
果物	↓	↓			↓		
獣肉類			↑				
塩分		↑					
アルコール	↑↑					↑↑	
熱い・飲食物	↑						
栄養関連要因	↑↑						
肥満 (腺がん)			↑↑				↑↑ (閉経後)
運動			↓↓ (結腸)				

*野菜・果物はInternational Agency for Research on Cancer, Fruits and Vegetables, IARC Handbooks of Cancer Prevention Volume 8, IARC Press 2003, その他の食品はWHO, Diet, Nutrition and the Prevention of Chronic Diseases, Report of a Joint WHO/FAO Expert Consultation, WHO Technical Report Series 916 2003. による。

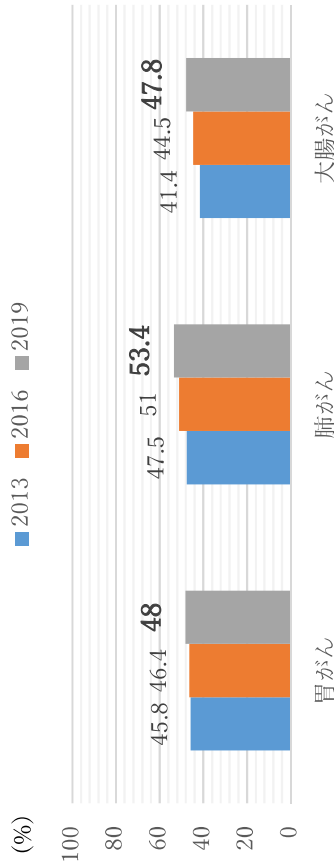
資料B

☆グラフや表から読み取れることは何か？

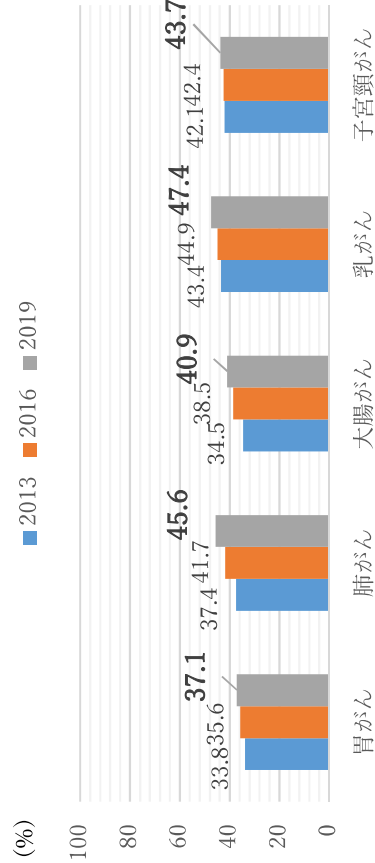
☆がん検診の受診率をあげるために必要なことは何か？

「第3期がん対策推進基本計画」の目標値：50%（令和4年度）

がん検診の受診率(男)

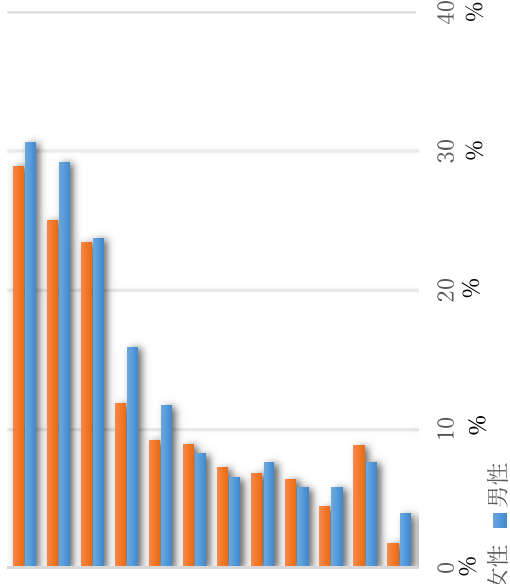


がん検診の受診率(女)



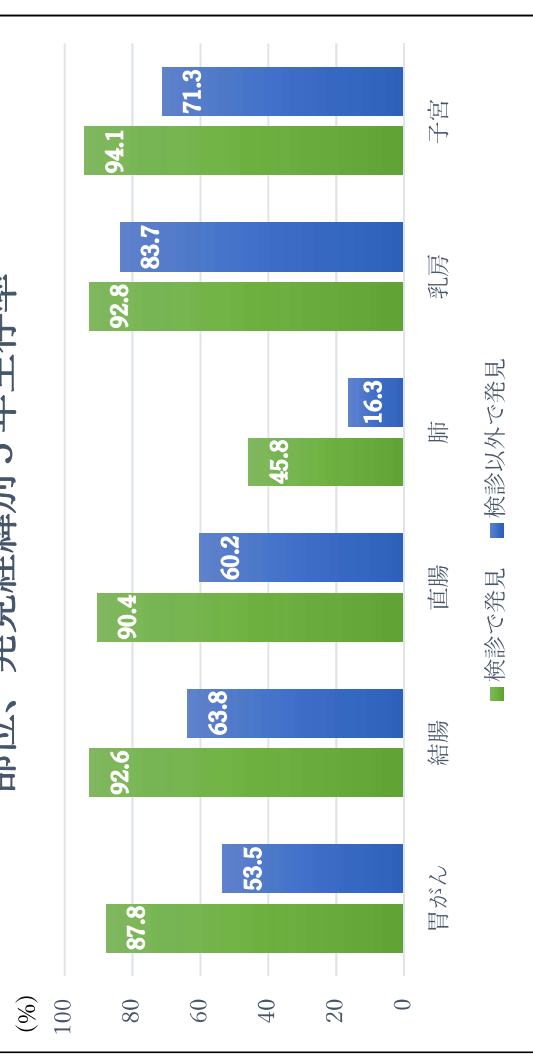
がん検診を受けない理由

健康状態に自信があり必要性を感じないから
 必要なきはいつでも医療機関を受診できるから
 費用がかかり経済的にも負担になるから
 うっかり受診するのを忘れてしまっているから
 がん検診そのものを知らないから
 検査に伴う苦痛に不安があるから
 がん検診を受けても見落としがあると思っ
 わからない



内閣府「がん対策・たばこ対策に関する世論調査」2019

部位、発見経緯別5年生存率



出典 国立がん研究センター がんの統計'05 より

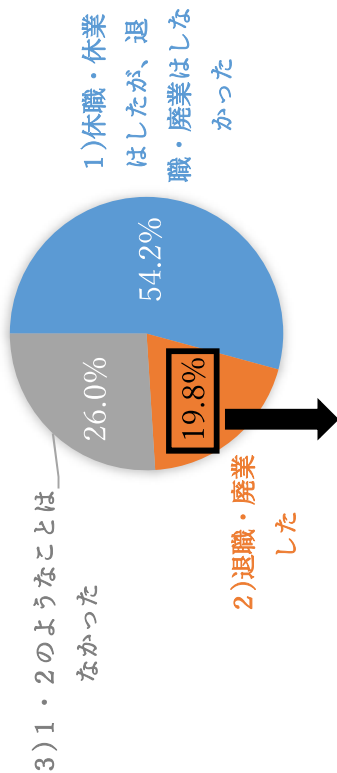
出典 国立がん研究センター「がん検診受診率(国民生活調査)」

資料C

- ☆ グラフや表から読み取れることは何か？
- ☆ 治療と仕事を両立するために大切なことは何か？

【がん患者・経験者の就労状況】

がん診断後の就労への影響

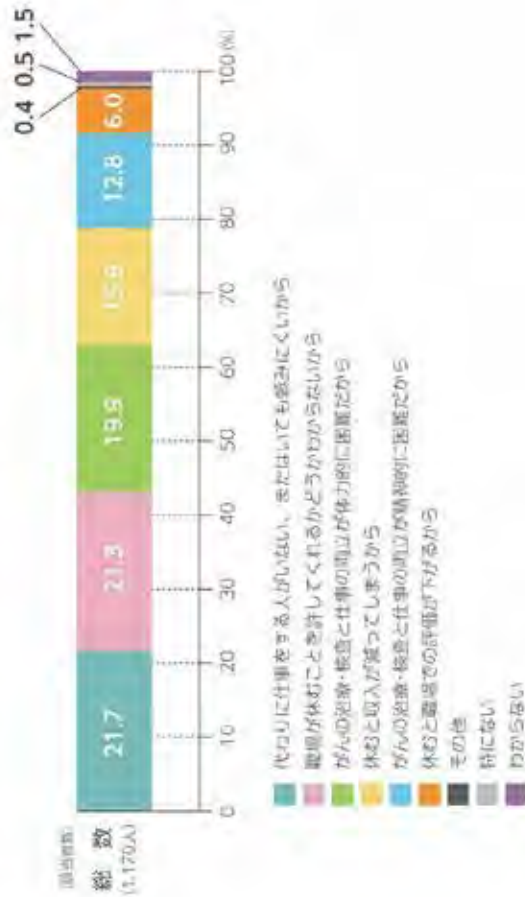


退職のタイミング

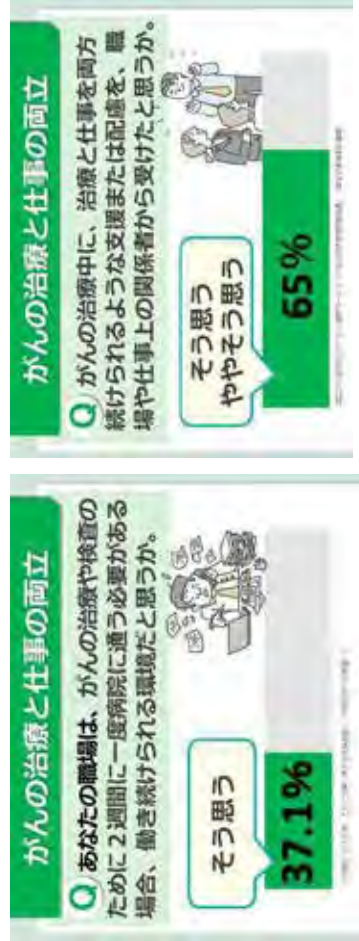


【治療と仕事の両立を困難にする最大の要因】

日本の社会は通院しながら働き続けられる環境と思うかについて、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えた人に



内閣府世論調査（平成28年11月実施）結果より抜粋 <https://p.ono-oncology.jp/>



○自分の班の資料を読み取り、メモしよう。

○他の班の発表を聞いて、新たにわかったことをメモしよう。

資料A	資料B	資料C
-----	-----	-----

○がんと向き合っていくうえで大切なことは何か、家族や身近な人、将来の自分に向けてメッセージを考えよう。

<個人>

<班内で出た意見>

○授業全体を振り返って、がんに対するイメージの変化や新しく知り得た知識を記入しよう。

令和4年度がん教育授業研究会（県立松山女子高等学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】参加者総数28名（一般18・来賓等10）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出18名）	16	2	0	0

※一般参加者18名の内訳：教諭7、養護教諭1、がん経験者2、医師1、看護師1
行政担当者1、学生等5



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について

- ・「がんの原因は生活習慣だけが問題なのではない」ということにしっかりと触れられていて、その点はとても重要だと思った。生徒にとっていかにがんという病気が身近であるかを認識させるために、実話であったり、身近な例を挙げてみたりするなど生徒が自分事として考えられるように工夫されていて参考になった。（高等学校・教諭）
- ・がん教育は重たい内容で難しいというイメージでやりづらさがあった。今回の授業を通して、プラスのイメージや社会につなげていくことが重要であり、高等学校の発達段階に応じた内容にしていくことが大切だと分かりました。（高等学校・教諭）
- ・生徒にグラフなどの資料を提示し、そこから読み取らせることで理解が深まると思いました。私自身これからの実勢に生かしていきたいと思います。（高等学校・教諭）
- ・ICTの活用、提示する資料の工夫、教師の体験談、CM映像の視聴などの工夫がとても参考になりました。がん教育は食生活や運動などの生活習慣などの予防について学ぶ側面が強いと思っていたところ、2人に1人はなること、治る人も多くいることから、がんにかかってからどう向き合うかを考えさせるという点はとても勉強になりました。（高等学校・教諭）
- ・特別支援学校に勤務する者として、通常学級（40人程度）の授業の様子を参観できたことがよかった。導入での基本の確認、前時の復習、グループ発表、個人のまとめ、共有までの授業の流れがまとまっていた参考になった。（特別支援学校・教諭）
- ・生徒がスムーズに話し合っている姿に驚きました。先生の日頃からの丁寧な指導の成果だと思います。生徒から発展的な意見も出てきていたので、現代社会の健康課題をしっかりと理解していることが分かりました。（高等学校・養護教諭）

- ・生徒の発表にあった「産休や育休のようにがんの治療を終えたら復職できるようにする」は、中小企業の未だに遅れている大きな課題だと感じました。生徒たちの保護者ががんになった時に、もう1度働きながらがんの治療に取り組む親(祖父母)の姿から学んでほしいと思いました。(がん患者団体・がん経験者)
- ・学校でどのように教育が行われていて、生徒たちがどのように考え、反応するのかが分かりました。(病院・医師)
- ・がん教育を受けることにより、検診率がUPしてがんの早期発見につながる(つなげられる)のではと期待がもてた。(病院・看護師)
- ・普段、外部講師(医師、経験者等)による授業を見ているので、教師による授業を見るのは初めてでとても勉強になった。生徒同士の意見交換も大変活発で、普段から授業をしている教師にしかできない授業であるという印象をもちました。(保健医療部・行政担当者)
- ・女子高での授業のため、女性特有のがんをイメージしていたが、男女のグラフの比較や総合的な内容など偏りなく指導していることが分かった。これらの配慮が、がんと向き合うことや、周囲にいる当事者を支えることに繋がるのだと思った。(大学院・院生)
- ・がん教育の実際に触れ、これから医療者となる自分に何ができるかを考える大きなきっかけとなった。また、いろいろな立場の方との協議を通じて、自分の考えを深めることができた。(医学部・学生)

【がん教育についての提案、意見、感想等】

- ・七木田先生の仰っていた「生徒に“わからない”と言わせる」というお話がとても身に沁みました。明日からの実践できるよう工夫していきたいと思います。(高等学校・教諭)
- ・配慮を要する生徒への対応について、とても難しいと感じました。これからも注意してやっていきたいと思いました。(高等学校・教諭)
- ・生徒が主体となり、いかにがんを身近に考え、得た知識を自分や社会にどう生かすかを考えさせるという明確なねらいをもって授業をしていきたいと思いました。(高等学校・教諭)
- ・配慮が必要なこともあるが、配慮しすぎることなく適切な対応を心掛けていきたい。生徒が主役の授業ができるよう工夫していきたい。(高等学校・教諭)
- ・身近であるはずのがんについて、生徒の“なんで？どうして？”を深掘していくことが大切だと感じた。教員が主体ではなく、生徒主体で進んでいく授業方法や他教科との関連、専門家との連携なども効果的であると思った。(特別支援学校・教諭)
- ・“生徒の疑問を共有することで学びを深める”“教えることを一度我慢して、疑問が出たときに教える”という点が新しい視点でした。(高等学校・養護教諭)
- ・がんは早期だったら治る。でもアグレッシブなタイプの薬が効かない患者の場合、早期でもすぐ再発して亡くなる現実もある。その現実を知ることは怖いことなので、学校、家庭の精神的な部分でも協力は必要だと思います。高校生は、祖父母世代にがん患者がいる可能性もあるので、少し距離のある関係の時期に、冷静にがんと向き合うなどの取組を学んでほしいと感じています。(がん患者団体・がん経験者)
- ・予想された意見・発表が多く、それ自体は問題ないと思いますが、自由な意見をもう少し聞いてみたかったです。(病院・医師)
- ・一人で抱え込まない環境づくりがとても大切だと感じている。地域での取組は必要で、若い頃、新鮮な感覚として知り得た知識は今後の生活に大変効果的であると感じた。(病院・看護師)

- ・教師の実体験を盛り込むことが効果的であることが分かった。「心の健康」など、他の単元との関連にも触れることでさらに理解が深まると思った。(大学院・院生)
- ・子供たちへのがん教育が進み、これから社会の中で正しく生きていくためには、今の大人に対するがん教育も必要だと思った。生徒たちが純粋にがんについて学び、考えている姿がとても印象的であった。(医学部・学生)

【全体会・研究協議の様子】



【授業の様子】



令和4年度埼玉県がん教育推進連絡協議会 設置要綱

(設置)

第1条 学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(事業)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

- (1) がん教育総合支援事業を推進するための支援体制の協議、検討
- (2) がん教育総合支援事業を推進するために係るその他の取組

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。
- 3 協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

(運営)

第4条 委員長は、協議会を総括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、令和5年2月28日までとする。

(会議)

第6条 委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

- 2 委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

(事務局)

第7条 協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

(経費)

第8条 協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、令和4年6月20日から施行する。

別 表（第 3 条関係） 委員

学識経験者
医師
がん経験者
薬剤師
疾病対策課副課長
校長
教諭
養護教諭
市町村教育委員会指導主事
保健体育課長

令和4年度 埼玉県がん教育総合支援事業(がん教育推進計画) (文部科学省委託事業)

背景

- 平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。
- がん対策推進基本計画では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。
- 学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされ、新学習指導要領に対応したがん教育の実施について検討する必要がある。

- 年間約37万人以上の国民ががんで死亡している。
- 埼玉県のがん検診受診率が50%未満である。

課題

- がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- 教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、

がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

がん教育推進連絡協議会

- 新学習指導要領に対応したがん教育に関する計画作成について 指導・助言をする。
 - ・教科、授業展開方法の検討
 - ・外部講師の活用体制の整備
 - ・関連機関との連携等
- 取組結果について、成果を検証する。
※がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、小・中学校、県立学校等へ配布

【構成委員20名】

学校関係者（校長・教諭・養護教諭）、医療機関関係者（医師・薬剤師等）、学識経験者、がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

- がん教育を推進していく教職員・外部講師を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

- 小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を行う。



健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成する。がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

令和4年度 「がん教育総合支援事業」 がん教育推進連絡協議会 名簿

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏 名	職 名	所 属
1	埼玉大学	七木田 文彦	准 教 授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人埼玉県医師会	丸木 雄一	理 事 長	埼玉精神神経センター
3	がん専門医	儀賀 理暁	教 授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	栗原 和江	代 表 理 事	NPO法人くまがや ピンクリボンの会
5	一般社団法人埼玉県病院薬剤師会	佐野 元彦	教 授	星薬科大学 実務教育研究部門
6	埼玉県公立小学校校長会	小松 薫樹	校 長	草加市立草加小学校
7	埼玉県中学校校長会	今村 美己	校 長	熊谷市立玉井中学校
8	埼玉県高等学校長協会	金室 紀夫	校 長	県立熊谷西高等学校
9	埼玉県小学校体育連盟	栗田 颯	教 諭	深谷市立深谷西小学校
10	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教 諭	松伏町立松伏第二中学校
11	埼玉県高等学校保健体育研究会	大屋 将人	教 諭	県立新座高等学校
12	埼玉県養護教諭会（小学校）	佐々木 真理	養 護 教 諭	戸田市立戸田東小学校
13	埼玉県養護教諭会（中学校）	川嶋 紅音	養 護 教 諭	上尾市立大石中学校
14	埼玉県養護教諭会（高等学校）	米本 真弓	養 護 教 諭	県立杉戸高等学校
15	埼玉県養護教諭会（特別支援学校）	津久井 美緒	養 護 教 諭	県立東松山特別支援学校
16	授業研究校代表（小学校）	蓮見 典昭	課長補佐兼 指導主事	羽生市教育委員会学校教育課
17	授業研究校代表（中学校）	小野 仁士	指導主事 兼副主幹	小鹿野町教育委員会学校教育課
18	授業校授業者（高等学校）	大久保 亜耶	教 諭	県立松山女子高等学校
19	県保健医療部疾病対策課	矢萩 義則	副 課 長	県保健医療部疾病対策課
20	県立学校部保健体育課	松中 直司	課 長	県教育局県立学校部保健体育課

1	事務局	遠井 学	主 指 導 主 任 事	県教育局県立学校部保健体育課
2	事務局	脇田 一亮	主 幹	県教育局県立学校部保健体育課
3	事務局	龍野 雅美	指 導 主 事	県教育局県立学校部保健体育課
4	事務局	咲間 悟	指 導 主 事	県教育局県立学校部保健体育課

令和4年度埼玉県「がん教育総合支援事業」実施報告書

埼玉県教育局県立学校部保健体育課

課長	松中	直司
教育指導幹事	大松	武晴
主任指導主事	遠井	学
主幹	脇田	一亮
主査	峰岸	宏次
指導主事	澤村	文香
指導主事	咲間	悟
指導主事	龍野	雅美
主事	滝澤	愛

令和5年2月発行

さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6963



埼玉県マスコット「コバトン」
「さいたまっち」